

## 第2章 那須町の現状

### 1. 人口について

(各年10月1日現在 / 単位:人)

区分		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
総人口		26,068	26,023	25,860	25,999	25,652	25,653
高齢者人口	前期	4,439	4,625	4,526	4,773	4,612	4,912
	後期	4,287	4,245	4,359	4,387	4,431	4,457
	合計	8,726	8,870	8,885	9,160	9,043	9,369
高齢化率		33.5%	34.1%	34.4%	35.2%	35.3%	36.5%

#### <評価>

総人口は、減少していますが、実績値は概ね計画値どおりとなっています。

高齢者人口は、前期高齢者人口、後期高齢者人口ともに増加しており、合計では増加傾向となっています。そのため、高齢化率は上昇して、計画値よりも高くなっており、平成29年10月1日現在で36.5%となっています。

### 2. 要介護等認定者数について

(各年10月1日現在 / 単位:人)

区分		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
要支援1		256	206	291	221	318	185
要支援2		139	210	144	210	142	198
要支援計		395	416	435	431	460	383
要介護1		200	207	201	233	223	251
要介護2		194	205	200	237	211	247
要介護3		177	177	169	170	172	184
要介護4		246	217	273	240	306	245
要介護5		170	156	192	152	218	155
要介護計		987	962	1,035	1,032	1,130	1,082
合計		1,382	1,378	1,470	1,463	1,590	1,465
認定者数の対高齢者割合		15.8%	15.5%	16.5%	16.0%	17.6%	15.6%

#### <評価>

要支援認定者数について、要支援1では実績値が計画値を下回りましたが、増加傾向にあります。要支援2では実績値が計画値を大幅に上回っています。

要介護認定者数について、要介護1、要介護2では、実績値が計画値を上回っており、認定者数が増加傾向にあります。要介護3では、実績値が概ね計画値どおりの推移となっていましたが、認定者数が平成29年度に増加しました。要介護4では実績値が計画値を下回っていますが、認定数は増加傾向にあります。要介護5では実績値が計画値を大きく下回り、認定者数は横ばいで推移しています。

要支援の合計は、実績値が平成27年度から28年度に増加し、29年度にかけて減少しました。要介護の合計は、平成27年度から29年度にかけて増加しています。その結果、要支援と要介護の合計は、平成27年度から28年度にかけて増加したものの、平成28年度から29年度はほぼ横ばいとなりました。

### 3. 日常生活圏域

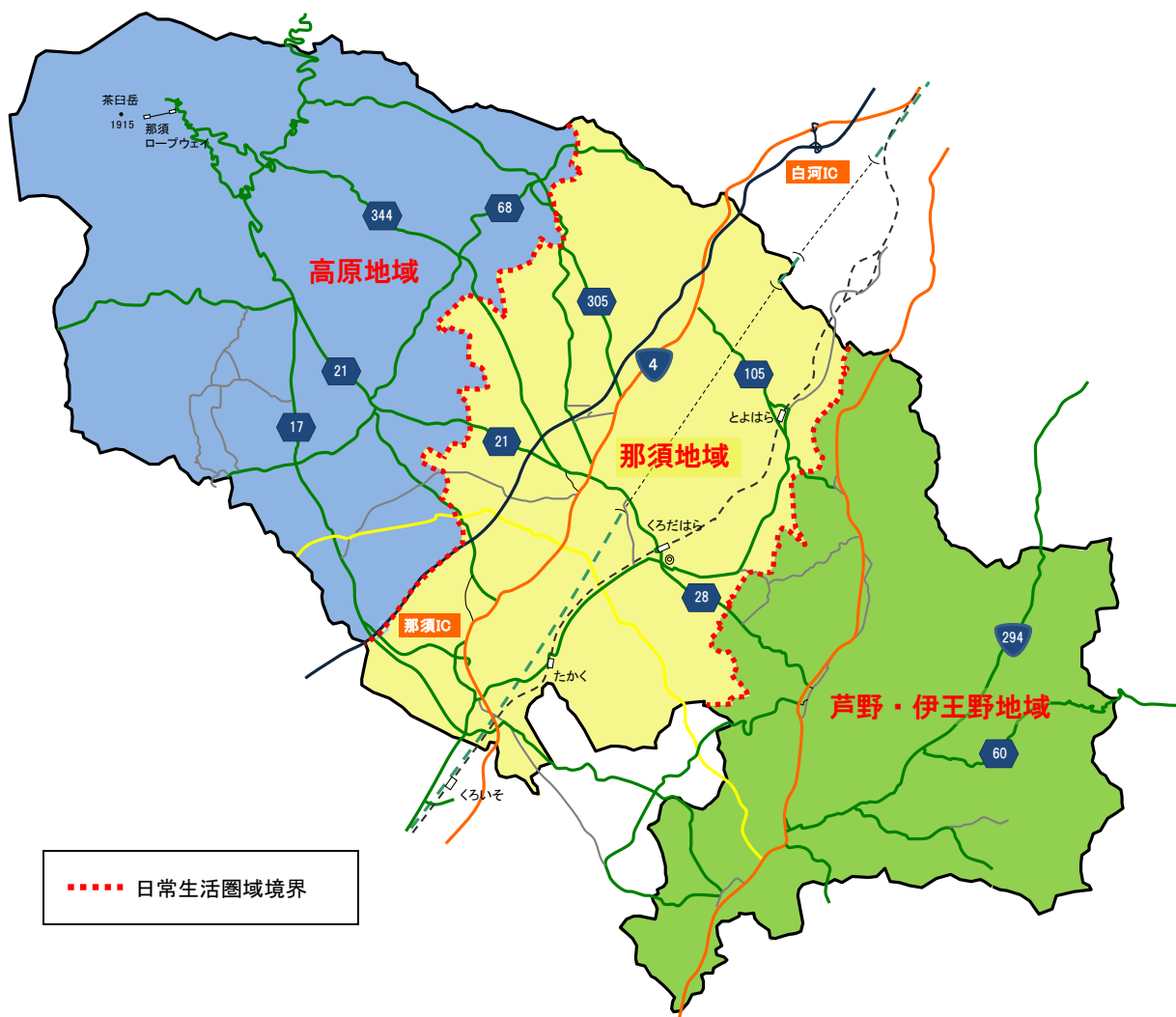
#### 1) 日常生活圏域の設定

介護保険事業計画においては、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、施設の整備状況などを総合的に勘案して、目指すべき地域包括ケアシステムを構築する区域を念頭に置いて、地域の実情に応じた日常生活圏域を定めることとされています。

本町の日常生活圏域は、自治会や公民館の区域、これまでの住民の地域活動等を考慮して、高原地域、那須地域、芦野・伊王野地域の3圏域に設定しています。

サービス基盤の整備にあたっては、本町の人口規模や利用ニーズを考慮の上、那須町全域を一体として整備を進め、必要なサービス基盤の確保を図っていきます。

(町資料)



## 2) 圏域の特色

### (1) 高原地域

県道那須高原線を主要道路とする自然豊かな別荘地であり、那須温泉を有する観光の地域です。また那須に定年後のライフスタイルを求める転入者が多く見られる地域です。

高原地域の高齢化率は39.5%と圏域の中で最も高いにも関わらず、要介護認定者率は12.3%と最も低くなっています。また、要介護3から要介護5の重度認定者が要介護認定者数に占める割合は、30.3%と圏域の中で最も低い状況です。

高原地域の基盤整備状況については、通所介護事業所が4箇所立地しており、他の圏域に比べて通所介護事業所数が多くなっています。

### (2) 那須地域

圏域の中央を国道4号・東北本線が通る本町の中心です。黒田原駅前通りの商店街の空洞化が見られていましたが、空き店舗の再利用等により活気を取り戻しつつあります。

那須地域の人口、高齢者数はともに圏域の中で最も多いですが、高齢化率は34.6%と最も低くなっています。地域内に特別養護老人ホームや養護老人ホーム等が整備されているため、要介護認定者率は16.0%と圏域の中で中位となっており、要介護3から要介護5の重度認定者が要介護認定者数に占める割合は、45.2%と圏域の中で最も高くなっています。

那須地域の基盤整備状況については、事業所の種類が圏域の中で最も多く、訪問看護事業所、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、福祉用具貸与・購入事業所が唯一整備されています。また、認知症対応型通所介護を担う事業所が整備されています。

### (3) 芦野・伊王野地域

国道294号に沿って集落が点在している農村、林業地帯です。

芦野・伊王野地域の高齢化率は、36.3%と町の平均並みとなっていますが、要介護認定者率は16.5%と圏域の中で最も高くなっています。要介護3から要介護5の重度認定者が要介護認定者数に占める割合は、35.0%と町の平均よりやや低くなっています。

芦野・伊王野地域の基盤整備状況については、事業所の種類・数ともに圏域の中ではやや少ない状況となっています。

【日常生活圏域毎の人口、高齢者数、要介護認定者数、重度認定者数】

(平成 29 年 10 月 1 日現在 / 単位:人(%))

圏域名	人口	高齢者数(率)	要介護認定者数(率)	重度認定者数(率) (要介護3~5)
高原地域	8,369	3,302(39.5%)	406(12.3%)	123(30.3%)
那須地域	12,515	4,335(34.6%)	695(16.0%)	314(45.2%)
芦野・伊王野地域	4,769	1,732(36.3%)	286(16.5%)	100(35.0%)
合計	25,653	9,369(36.5%)	1,387(14.8%)	537(38.7%)

\* 第 2 号被保険者及び住所地特例者を除く。

【日常生活圏域毎の基盤整備状況】

(平成 29 年 10 月 1 日現在、町資料)

生活圏域		高原地域	那須地域	芦野・伊王野地域
基盤整備 の 状況	通所介護事業所	4 箇所	1 箇所	2 箇所
	地域密着型通所介護	2 箇所	7 箇所	0 箇所
	居宅介護支援事業所	1 箇所	8 箇所	2 箇所
	訪問介護事業所	1 箇所	2 箇所	2 箇所
	訪問看護事業所	0 箇所	1 箇所	0 箇所
	短期入所生活介護	0 箇所	3 箇所(定員 36 名)	0 箇所
	特別養護老人ホーム	0 箇所	広域型 3 箇所 (定員 164 名) 地域密着型 1 箇所 (定員 19 名)	0 箇所
	認知症高齢者グループホーム	1 箇所(定員 18 名)	3 箇所(定員 54 名)	0 箇所
	認知症対応型通所介護事業所	0 箇所	2 箇所(定員 12 名)	0 箇所
	小規模多機能型居宅介護施設	0 箇所	1 箇所 (登録定員 25 名)	1 箇所 (登録定員 29 名)
	養護老人ホーム	0 箇所	1 箇所(定員 50 名)	0 箇所
	サービス付高齢者向け住宅	1 箇所(定員 5 名)	1 箇所(定員 70 名)	1 箇所(定員 40 名)
	福祉用具貸与・購入	0 店舗	2 店舗	0 店舗

## 4. 高齢者の現状

### 1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

#### (1) 調査の概要

##### ①調査の目的

高齢者の生活や介護状況等を把握し分析することで、地域の抱える課題を特定し、「那須町第7期高齢者福祉・介護保険事業計画」の策定・実施に活用する。

##### ②調査対象

調査対象	抽出方法
町民	町民のうち、要介護認定者を除く65歳以上の方の中から無作為に抽出 【総数】1,500名(内訳 男性:690名、女性:810名)

##### ③調査項目

- 1) ご家族や生活状況について
- 2) からだを動かすことについて
- 3) 食べることについて
- 4) 毎日の生活について
- 5) 地域での活動について
- 6) たすけあいについて
- 7) 健康について

##### ④アンケート回収状況

対象者数	有効回収数	有効回答率
1,500人	1,039人	69.3%

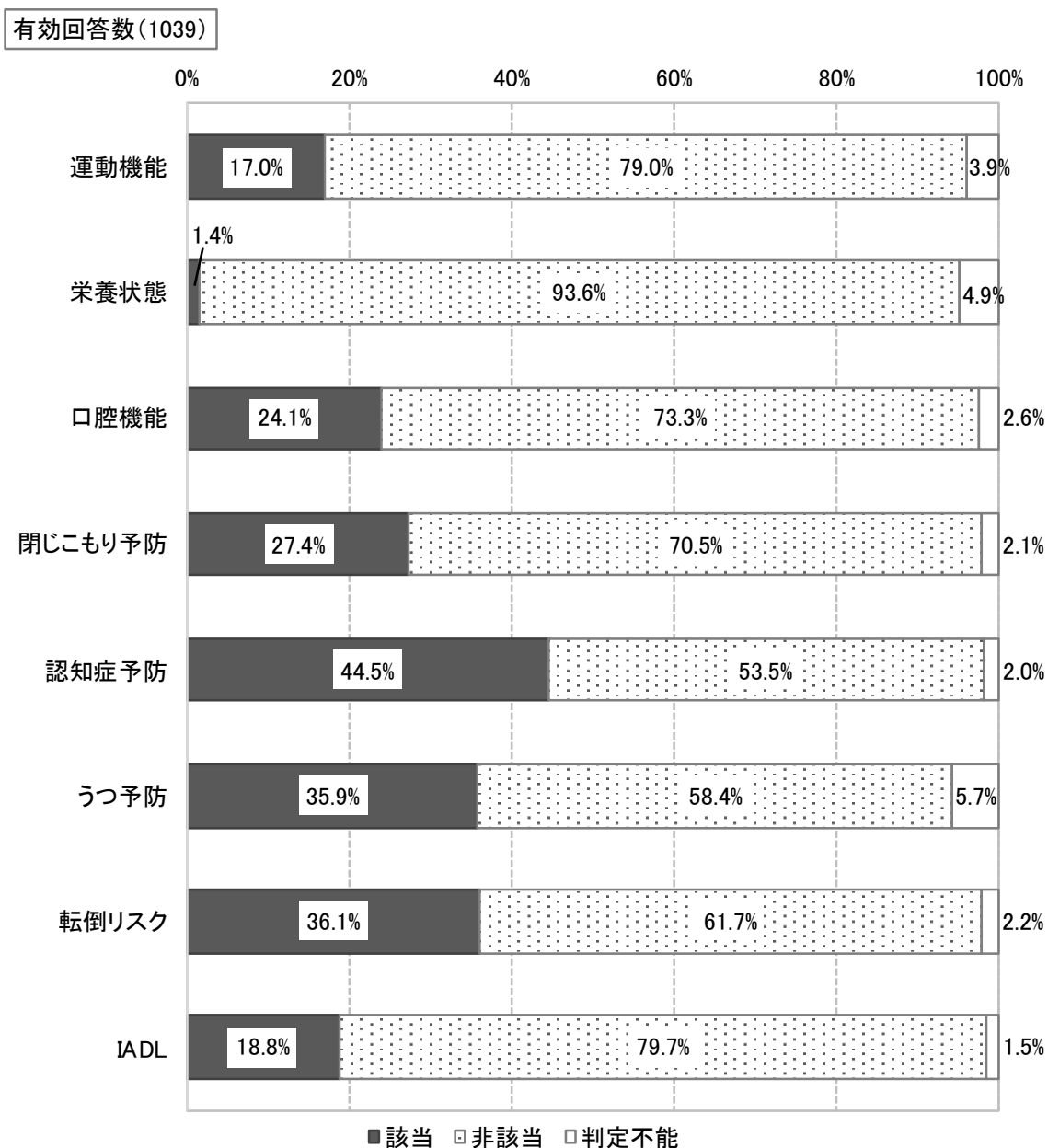
##### ⑤調査の実施年月日

- 1) 調査手法：郵送による配布・回収
- 2) 調査期間：平成29年1月31日から平成29年2月20日

## (2) 各判定結果該当状況

各判定項目の該当状況は、以下の結果となっています。

### 【各判定項目の該当状況】

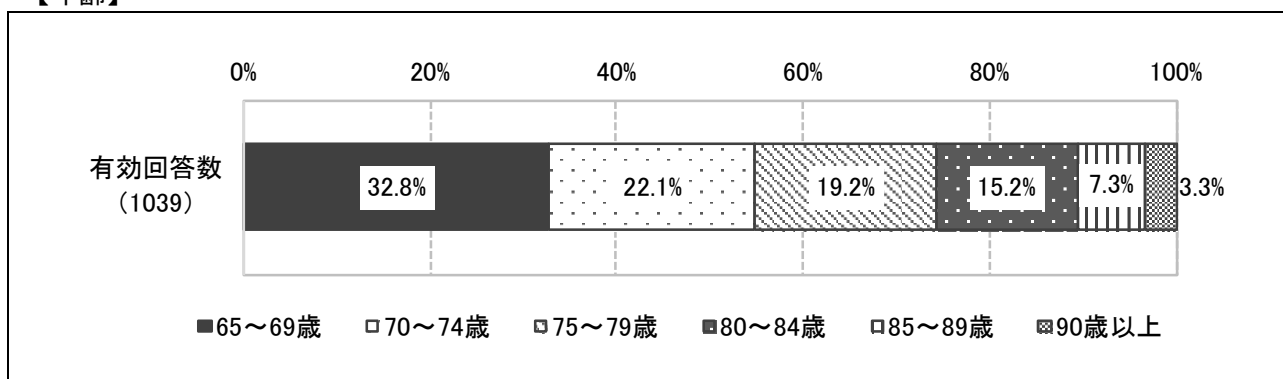


※ IADL（手段的日常生活動作）・・・要介護高齢者や障がい者等が、どの程度自立的な生活が可能か評価する指標です。評価項目は日常生活を送る上で必要な動作であり、具体的には、買い物、調整、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作を指します。

判定項目のうち、「認知症予防」の該当率が44.5%と最も高く、次いで「転倒リスク(36.1%)」、「うつ予防(35.9%)」、「閉じこもり予防(27.4%)」、「口腔機能(24.1%)」の順となっています。

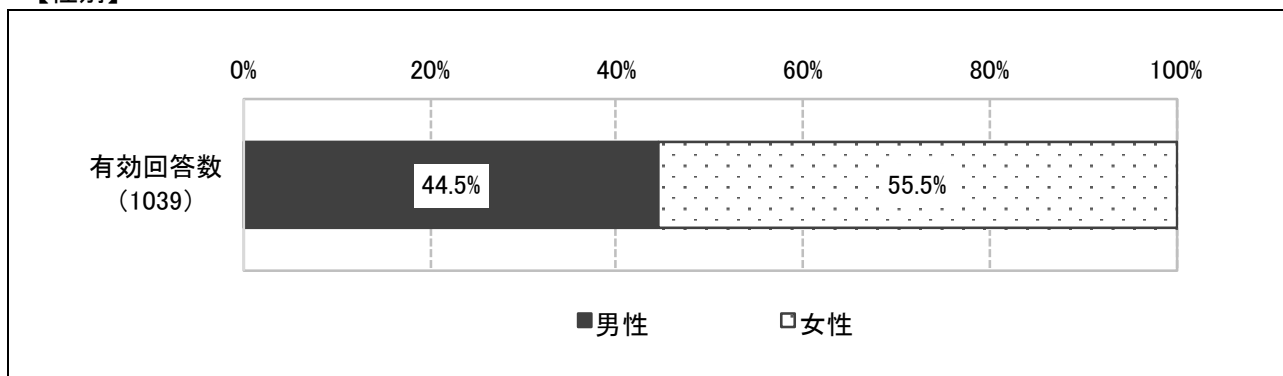
### (3) 回答状況

#### 【年齢】



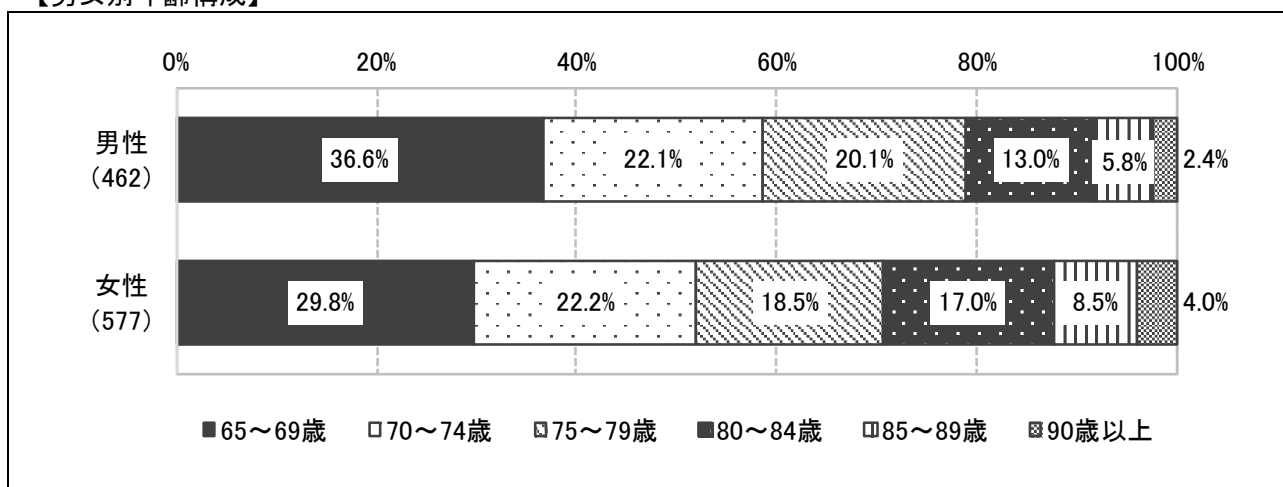
調査回答者の年齢は、「65～69歳」が32.8%と最も多く、次いで「70～74歳（22.1%）」、「75～79歳（19.2%）」、「80～84歳（15.2%）」、「85～90歳（7.3%）」、「90歳以上（3.3%）」の順となっています。後期高齢者（75歳以上）の回答が、45.0%を占めています。

#### 【性別】



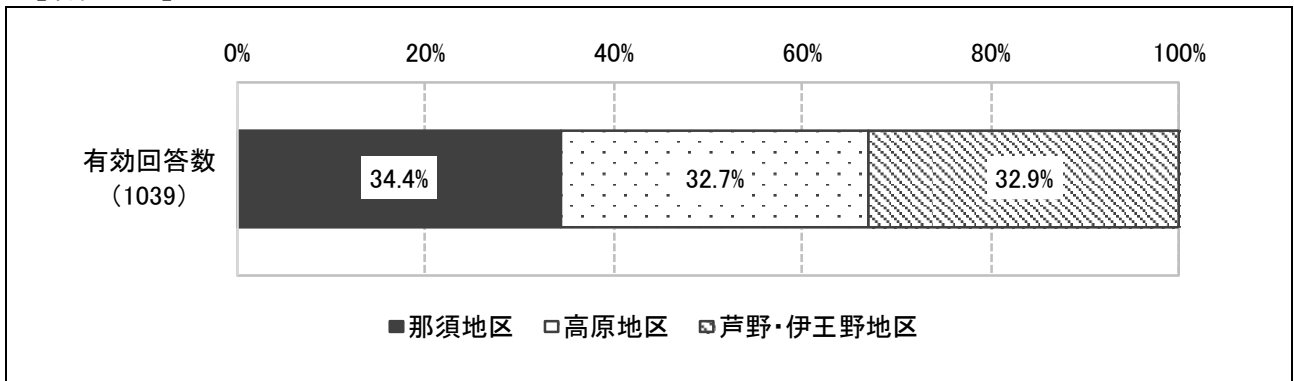
調査回答者の性別では、「男性」が44.5%、「女性」が55.5%となっています。

#### 【男女別年齢構成】



男女別年齢構成では、前期高齢者（65～74歳）の割合は男性が女性を上回り、後期高齢者（75歳以上）の割合は女性が男性を上回っています。

【居住地区】

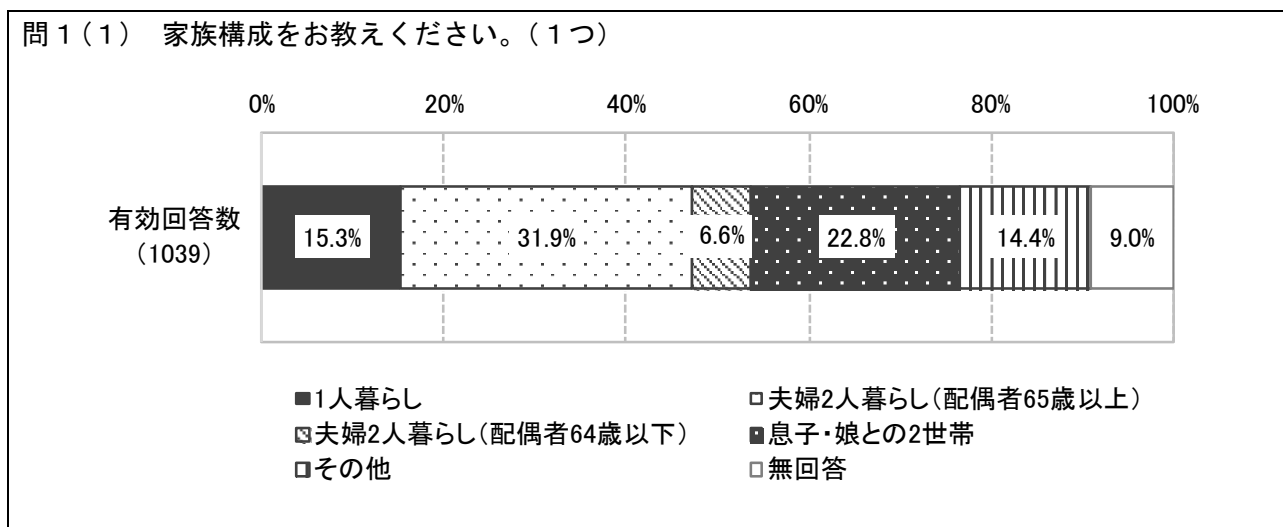


調査回答者の居住地区では、「那須地区」が34.4%と最も多く、次いで「芦野・伊王野地区」が32.9%、「高原地区」が32.7%となっています。



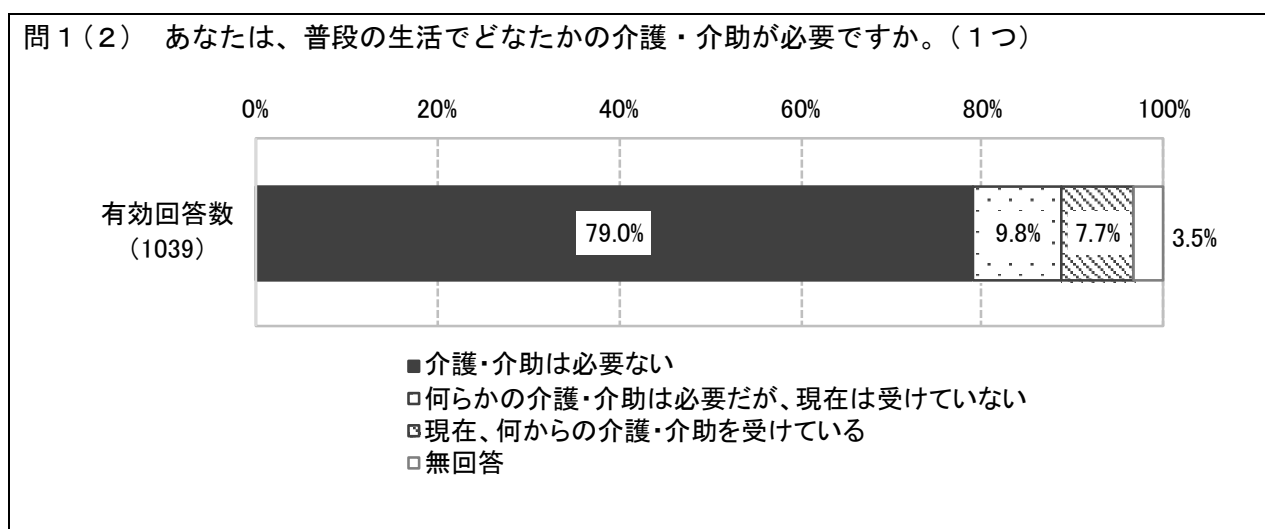


#### (4) 各設問の回答状況 (抜粋)



家族構成では、「1人暮らし」が15.3%となっています。また、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」、「息子・娘との2世帯」といった「家族などと同居」している割合が全体の61.3%を占めています。そのうち、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が31.9%と最も高い割合を占めています。

前回調査(平成25年12月実施)に比べて、1人暮らし(前回10.6%)が増える一方、家族などと同居とその他の合計(前回82.2%、今回75.7%)が減っています。

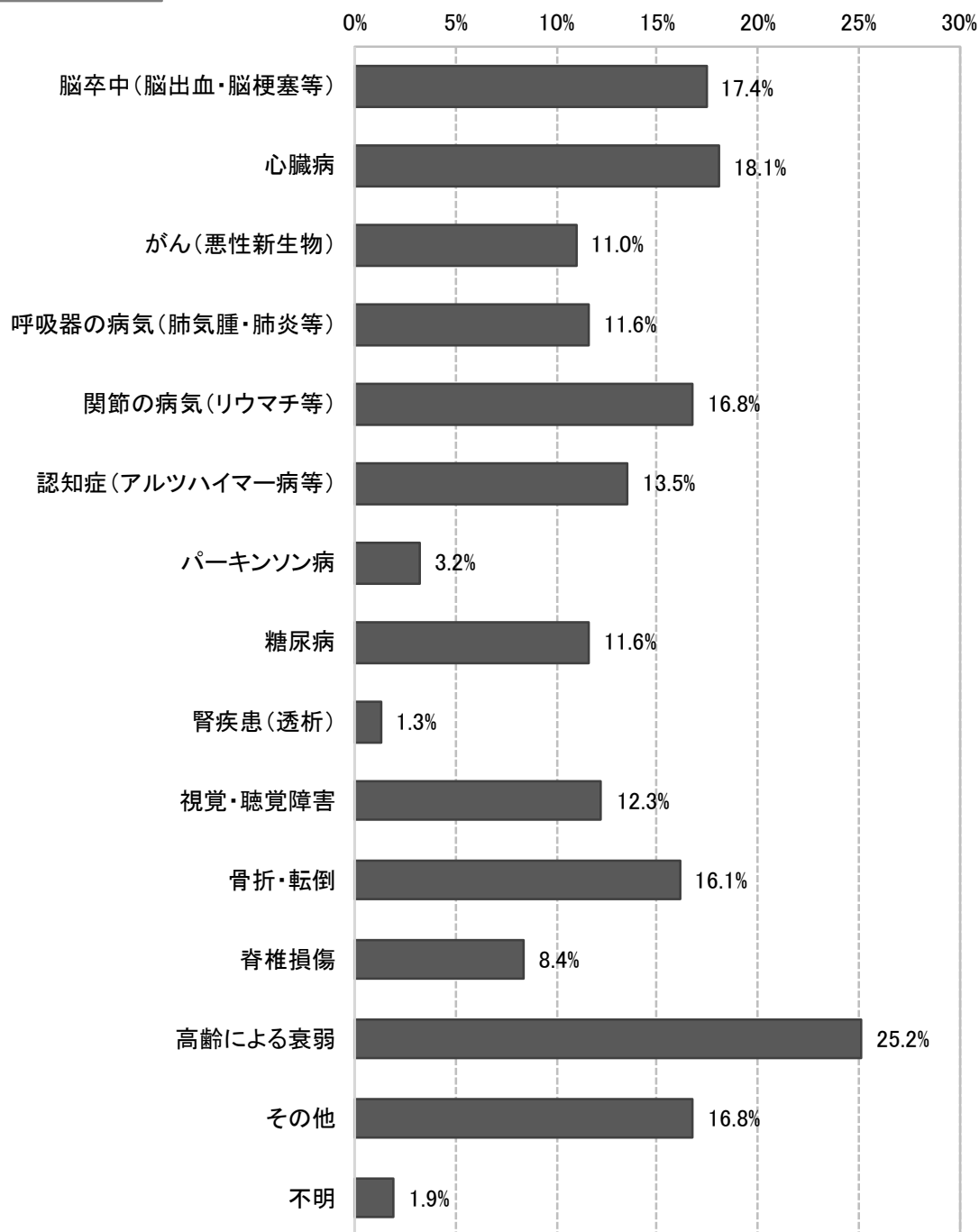


普段の生活での介護・介助の必要性では、「介護・介助は必要ない」が79.0%を占めています。

一方で、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が9.8%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」が7.7%となっており、合わせて17.5%が「介護・介助が必要」と回答しています。

問1(2)① 問1(2)で「介護・介助は必要ない」とお答えの方以外の方にお聞きします。介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)

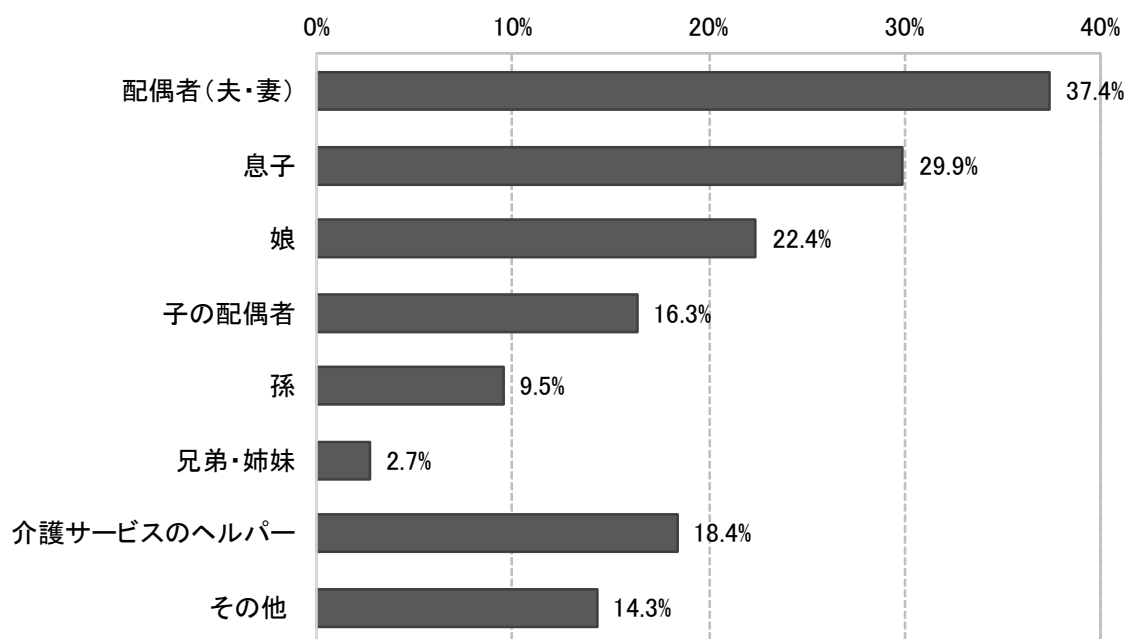
有効回答数(155)



介護・介助が必要になった主な理由は、「高齢による衰弱」が25.2%と最も多くなっています。次いで、「心臓病(18.1%)」、「脳卒中(17.4%)」、「関節の病気(16.8%)」、「その他(16.8%)」、「骨折・転倒(16.1%)」と続きます。

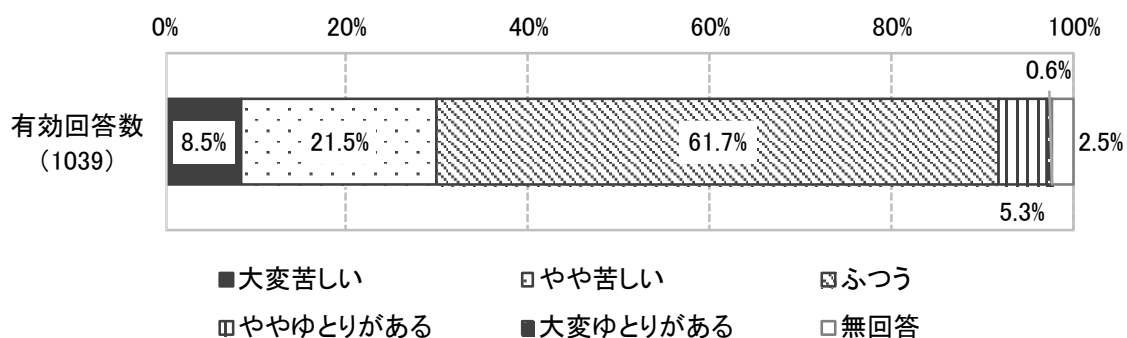
問1(2)② 問1(2)で「介護・介助は必要ない」とお答えの方以外の方にお聞きします。主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも)

有効回答数(147)



介護・介助者では、「配偶者」が37.4%と最も多くなっています。次いで、「息子(29.9%)」、「娘(22.4%)」と家族による介護・介助が続き、その後「介護サービスのヘルパー」が18.4%となっています。

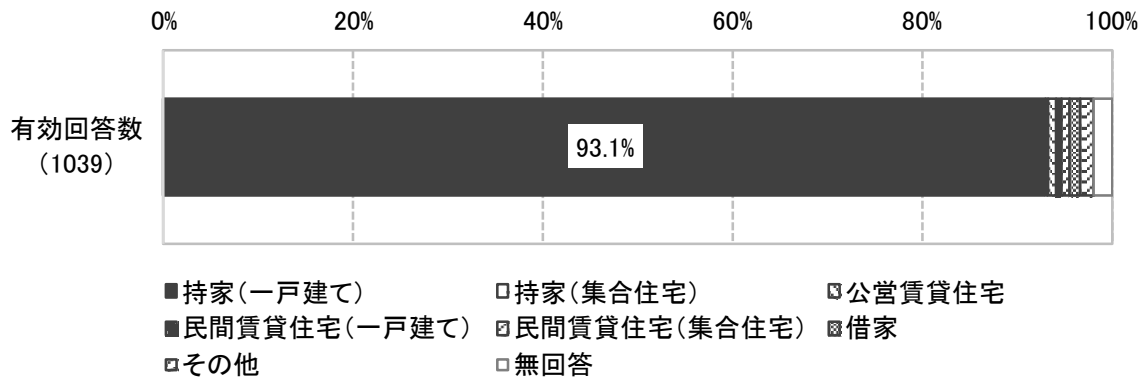
問1(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つ)



暮らしの経済状況では、「大変難しい(8.5%)」と「やや難しい(21.5%)」を合わせると、全体の約3割が「難しい」と回答しています。

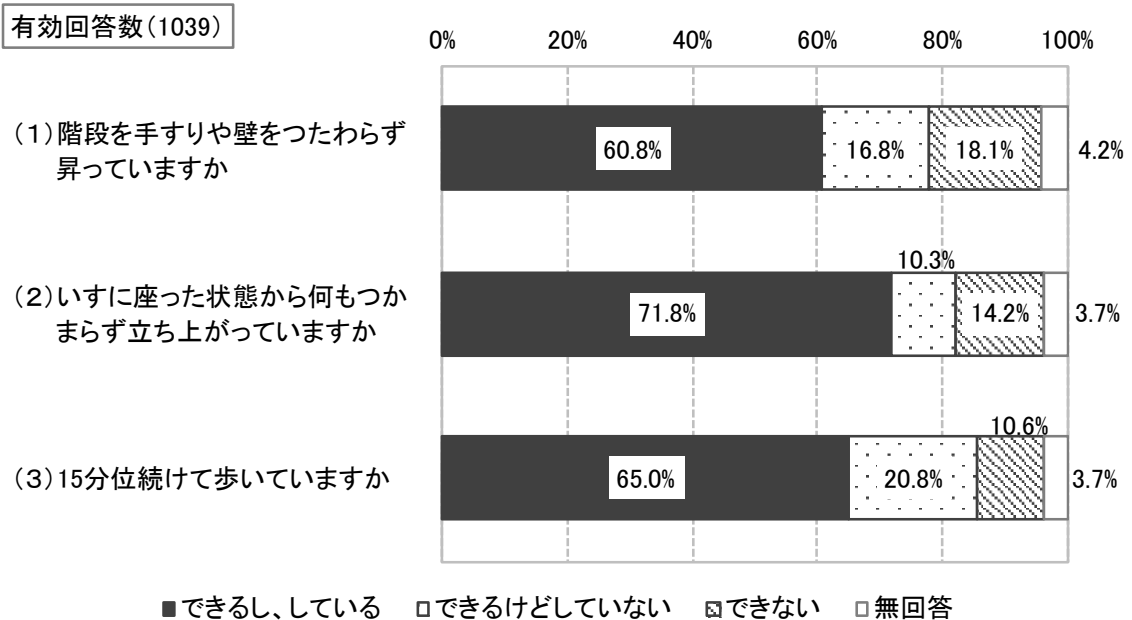
全体の割合としては、「ふつう」が61.7%と最も高い割合を占めています。

問1(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つ)



住居形態では、「持家（一戸建て）」が全体の9割以上を占めています。

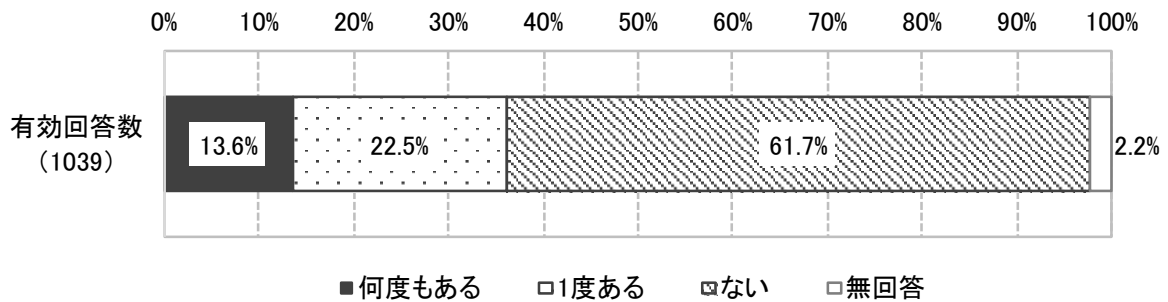
問2(1)～(3) からだを動かすことについてうかがいます。(それぞれ1つ)



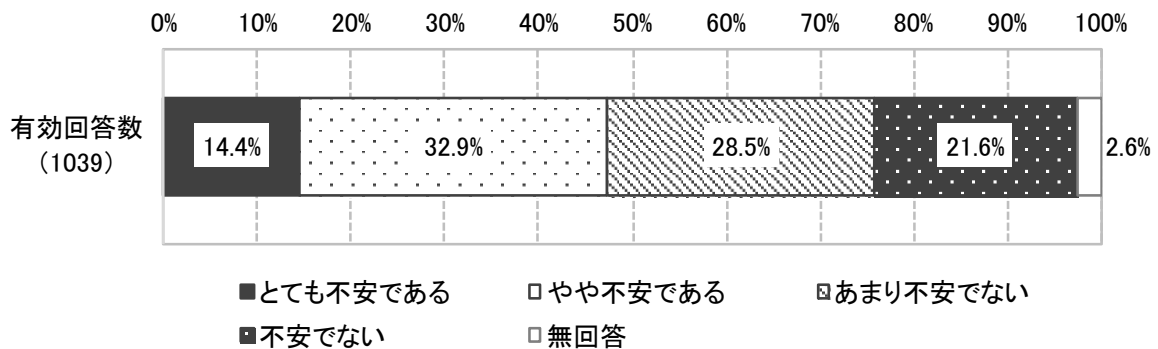
日常生活の動作についてみると、「階段を手すりや壁をつたわず昇っているか」では60.8%、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか」では71.8%、「15分位続けて歩いているか」では65.0%の方が「できるし、している」と回答しています。また、各設問において、約1～2割の方が「できるけどしていない」と回答しています。

一方、約1～2割の方が「できない」と回答しています。

問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つ)



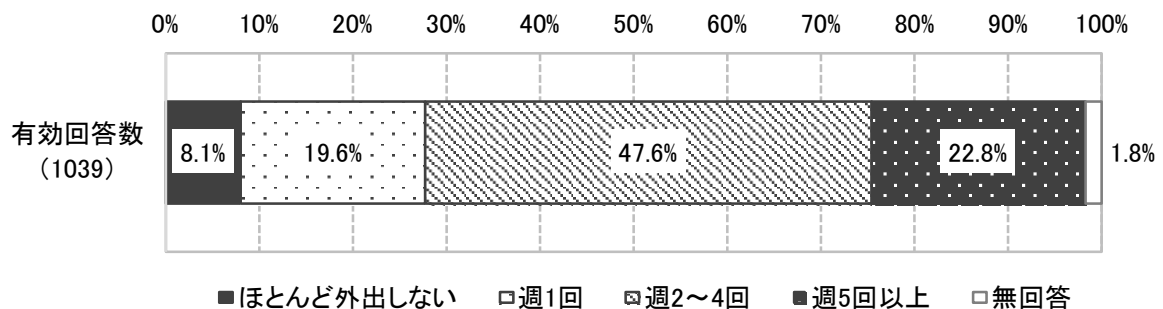
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(1つ)



過去1年間に転倒したことのある方は「何度もある (13.6%)」と「1度ある (22.5%)」を合わせて、全体の36.1%となっています。また「ない」と回答した方は全体の61.7%を占めています。

また、転倒に対する不安は、「とても不安である (14.4%)」と「やや不安である (32.9%)」を合わせて、全体の47.3%の方が「不安」に感じています。

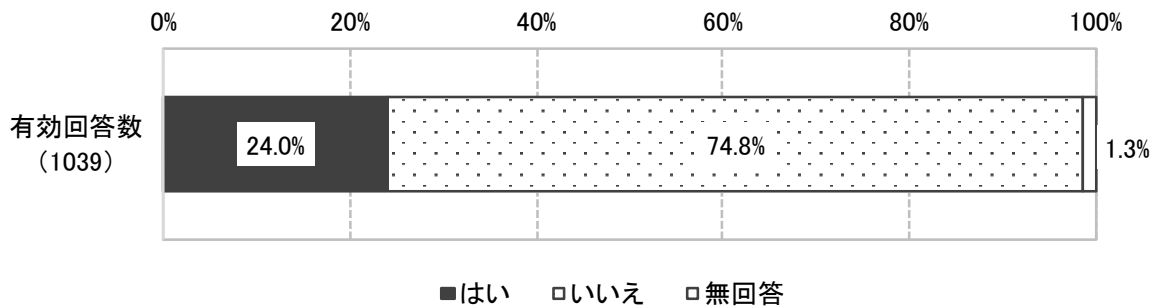
問2(6) 週に1回以上は外出していますか。(1つ)



外出の有無・頻度については、8.1%の方が「ほとんど外出しない」と回答している一方で、「週1回以上は外出している」という方は全体の90.0%を占めており、ほとんどの方が外出をしています。

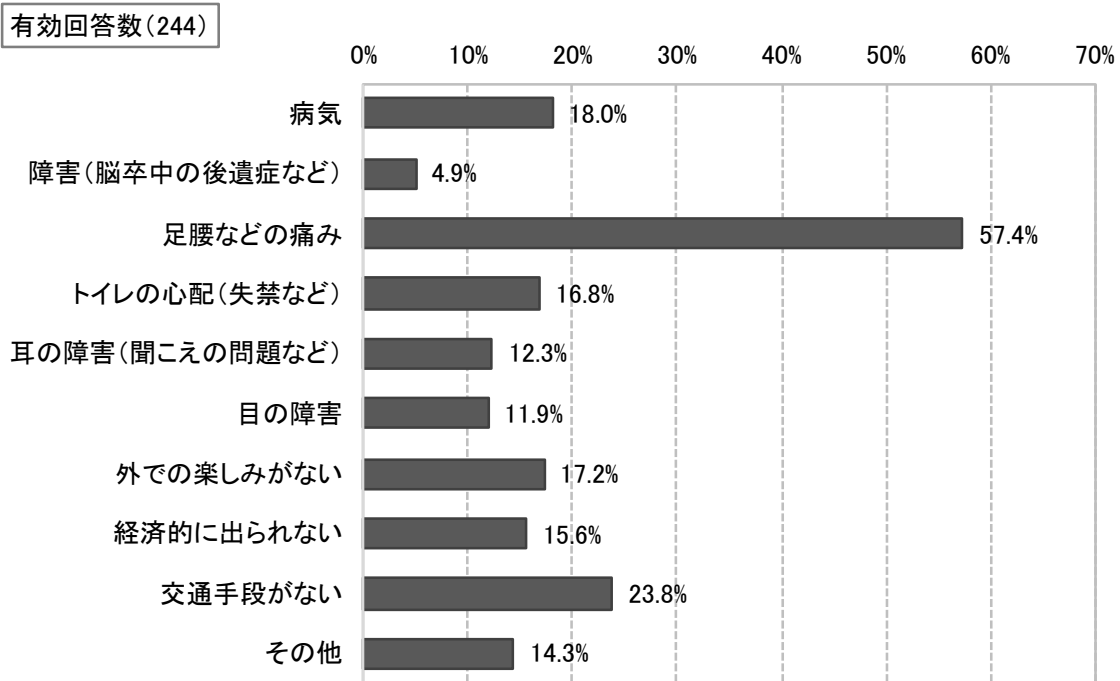
外出の頻度としては、「週2~4回」が47.6%と最も多くなっています。次いで、「週5回以上」が22.8%、「週1回」が19.6%となっています。

問2(8) 外出を控えていますか。(1つ)



外出状況では、24.0%の方が「外出を控えている」と回答しています。「外出を控えていない」と回答した方は、全体の74.8%を占めています。

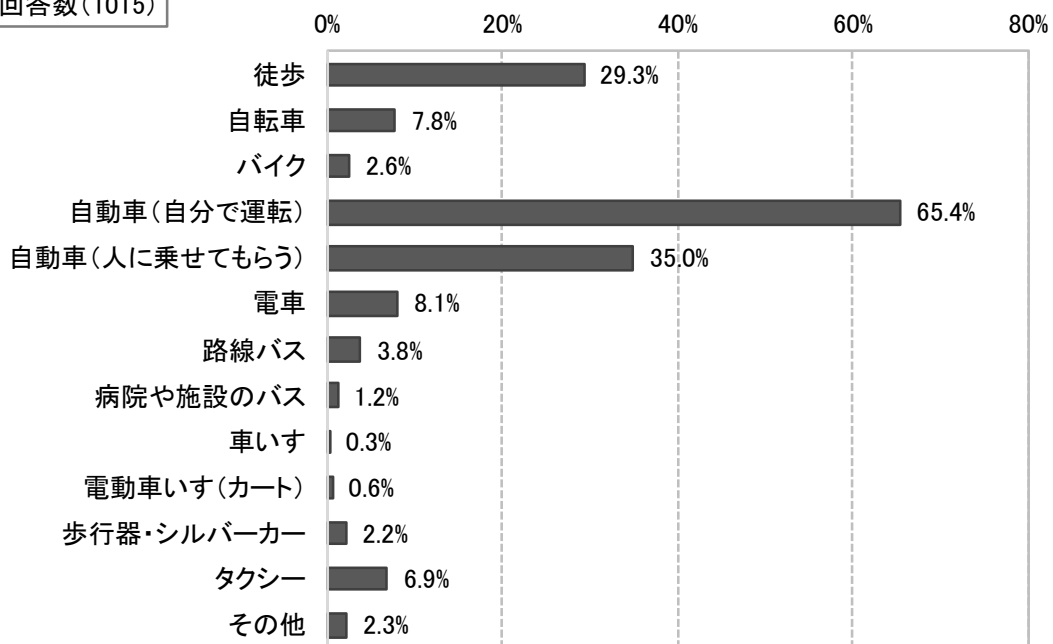
問2(8)① 問2(8)で「はい」と答えた方(外出を控えている方)にお聞きします。外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)



外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が57.4%と最も多くなっています。次いで、「交通手段がない(23.8%)」、「病気(18.0%)」となっています。

問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

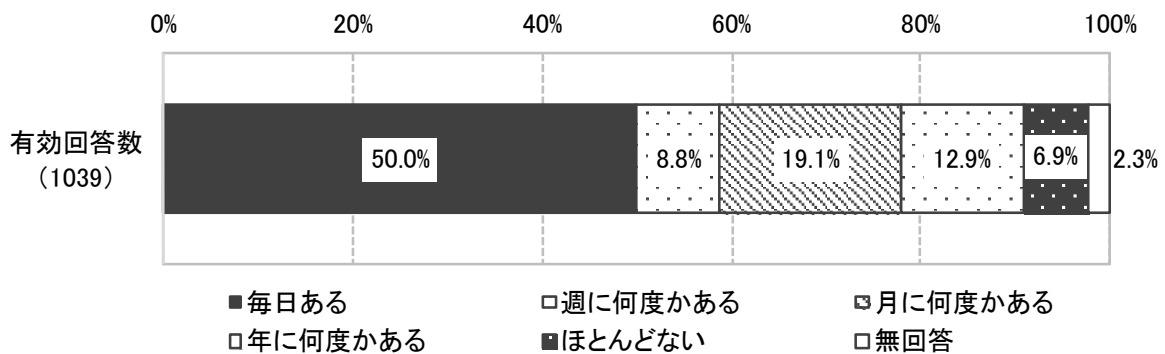
有効回答数(1015)



外出時の移動手段では、「自動車(自分で運転)」が65.4%と最も多く、6割以上の方が今もなお自分で車を運転しています。

次いで、「自動車(人に乗せてもらう)」が35.0%、「徒歩」が29.3%となっています。公共交通などの利用はいずれも1割以下となっています。

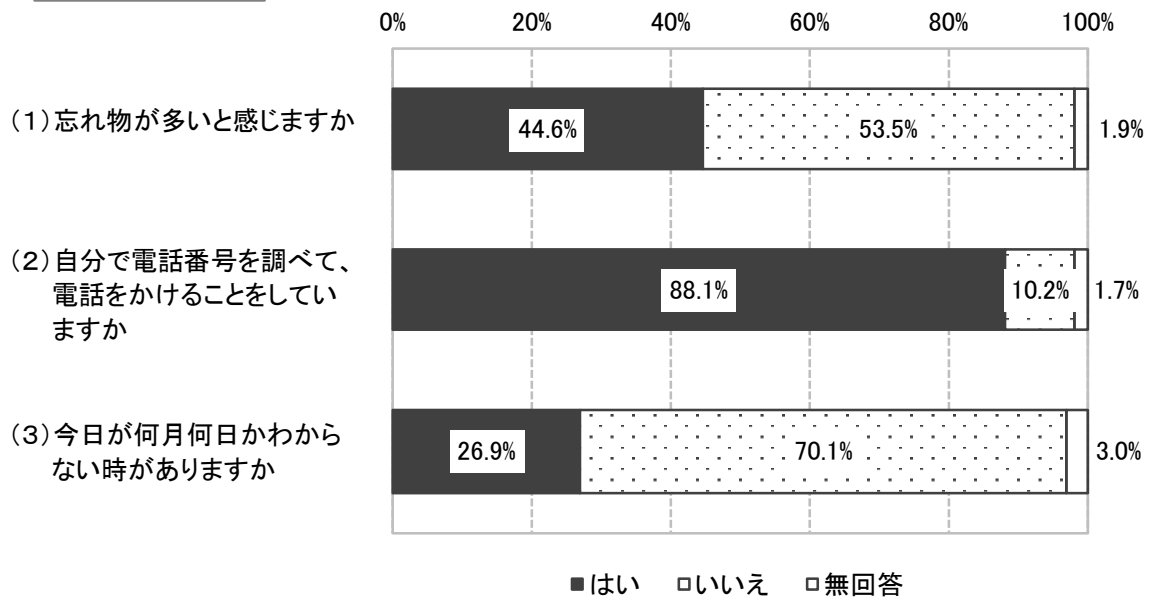
問3(8) どなたかと食事をとる機会がありますか。(1つ)



5割の方が、「毎日どなたかとともに食事をしている」と回答している一方、「ほとんどない」が6.9%、「年に何度かある」が12.9%、合わせて19.8%の人が、普段1人で食事をしています。

問4(1)~(3) 日常生活についてうかがいます。(それぞれ1つ)

有効回答数(1039)



日常生活についてみると、「忘れ物が多いと感じますか」という問いに対して、「はい」と回答する割合が44.6%、また「今日が何月何日かわからない時がありますか」という問いに対して「はい」と回答する割合が26.9%となっており、認知症に近い症状が出ている方が一定層いることが分かります。

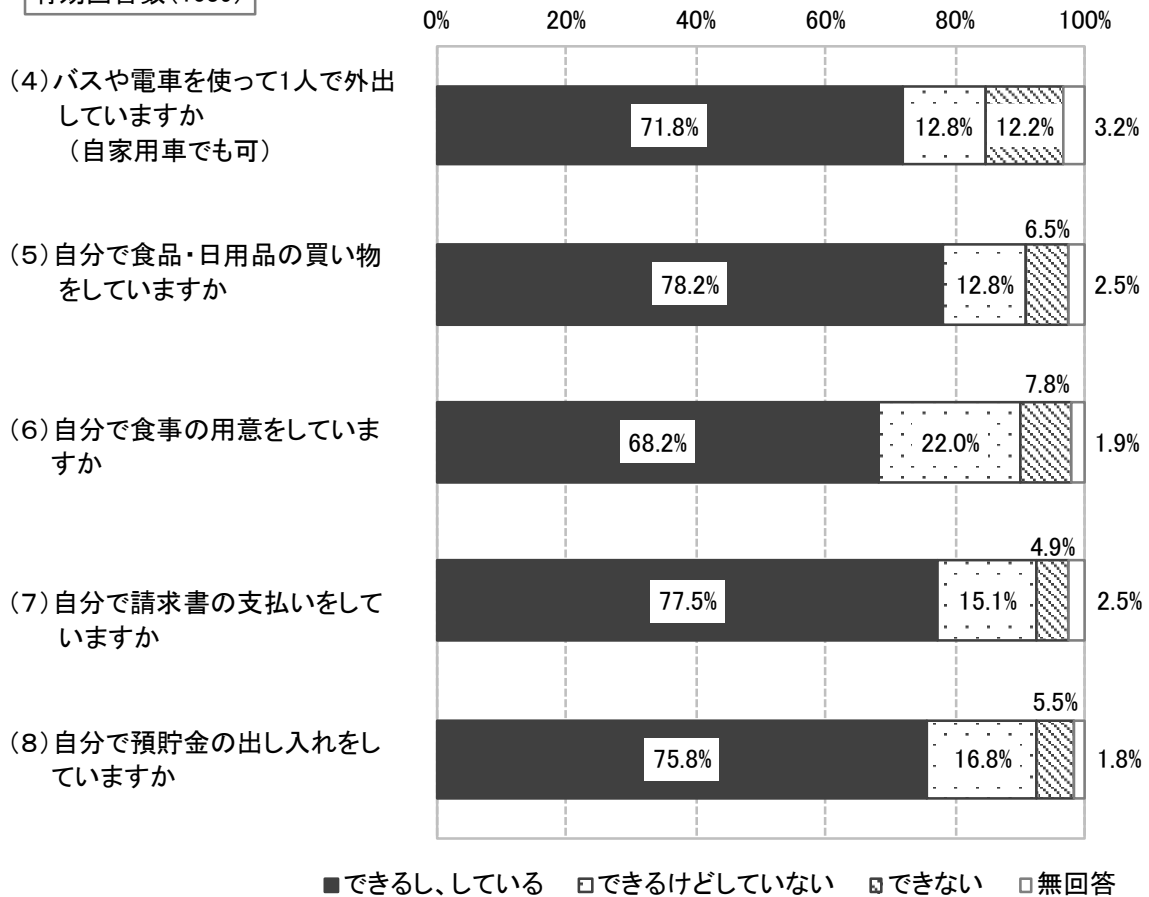
また、「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」という問いに対して、「はい」と回答する割合は88.1%となっており、ほとんどの人が自ら実践していることが分かります。





問4(4)～(8) 毎日の生活についてうかがいます。(それぞれ1つ)

有効回答数(1039)

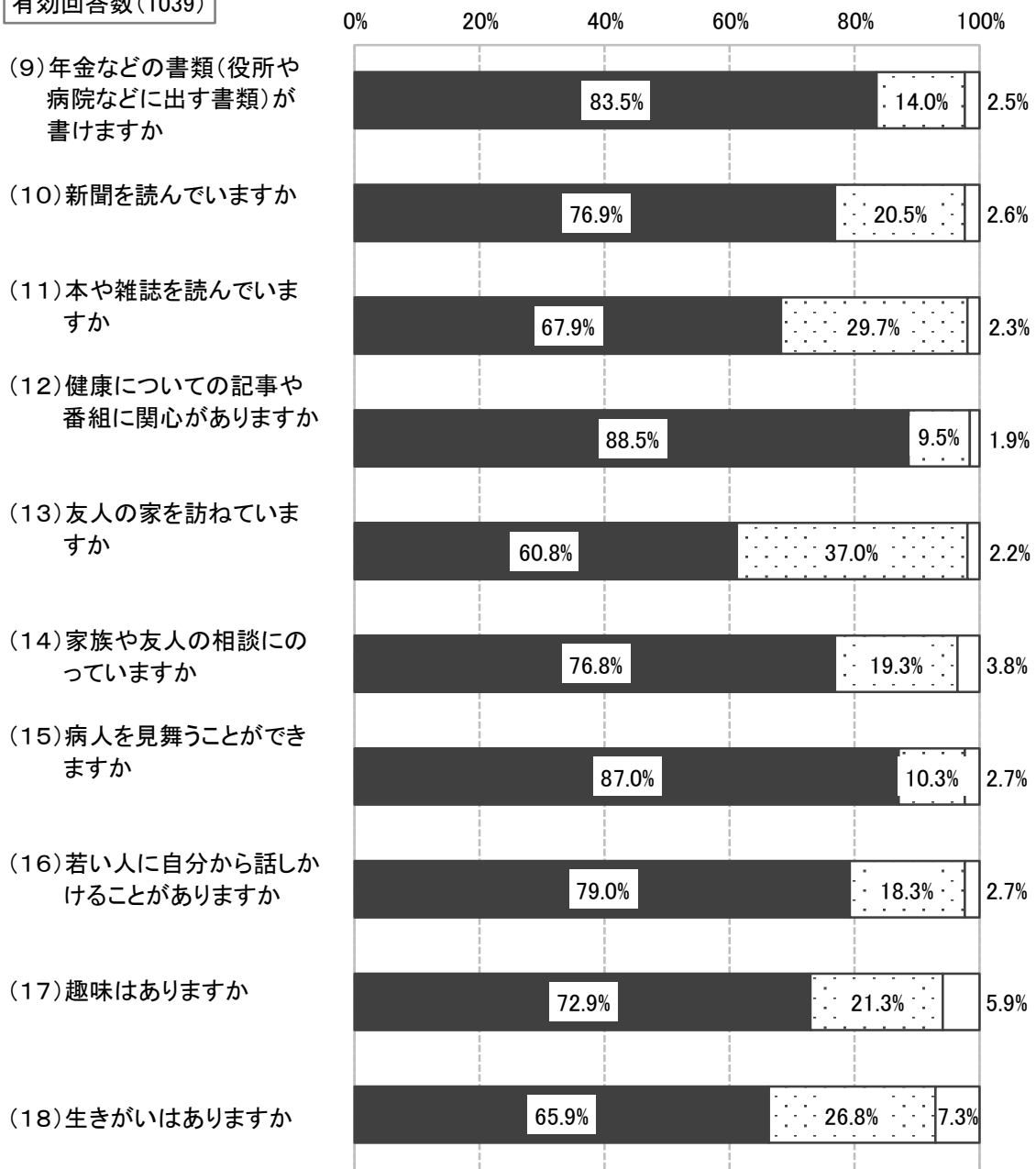


毎日の生活についてみると、全体の約7割以上の方が「できるし、している」と回答しています。

「バスや電車を使って1人で外出していますか」、「自分で食事の用意をしていますか」という問いに対して、「できるけどしていない」、「できない」と回答する割合が、他の問いに比べてやや多く、支援が必要な状況です。特に、「バスや電車を使って1人で外出していますか」という問いに対する「できない」の割合が12.2%と最も多くなっており、特に支援が必要となっています。

問4 (9)～(18) 毎日の生活についてうかがいます。(それぞれ1つ)

有効回答数(1039)

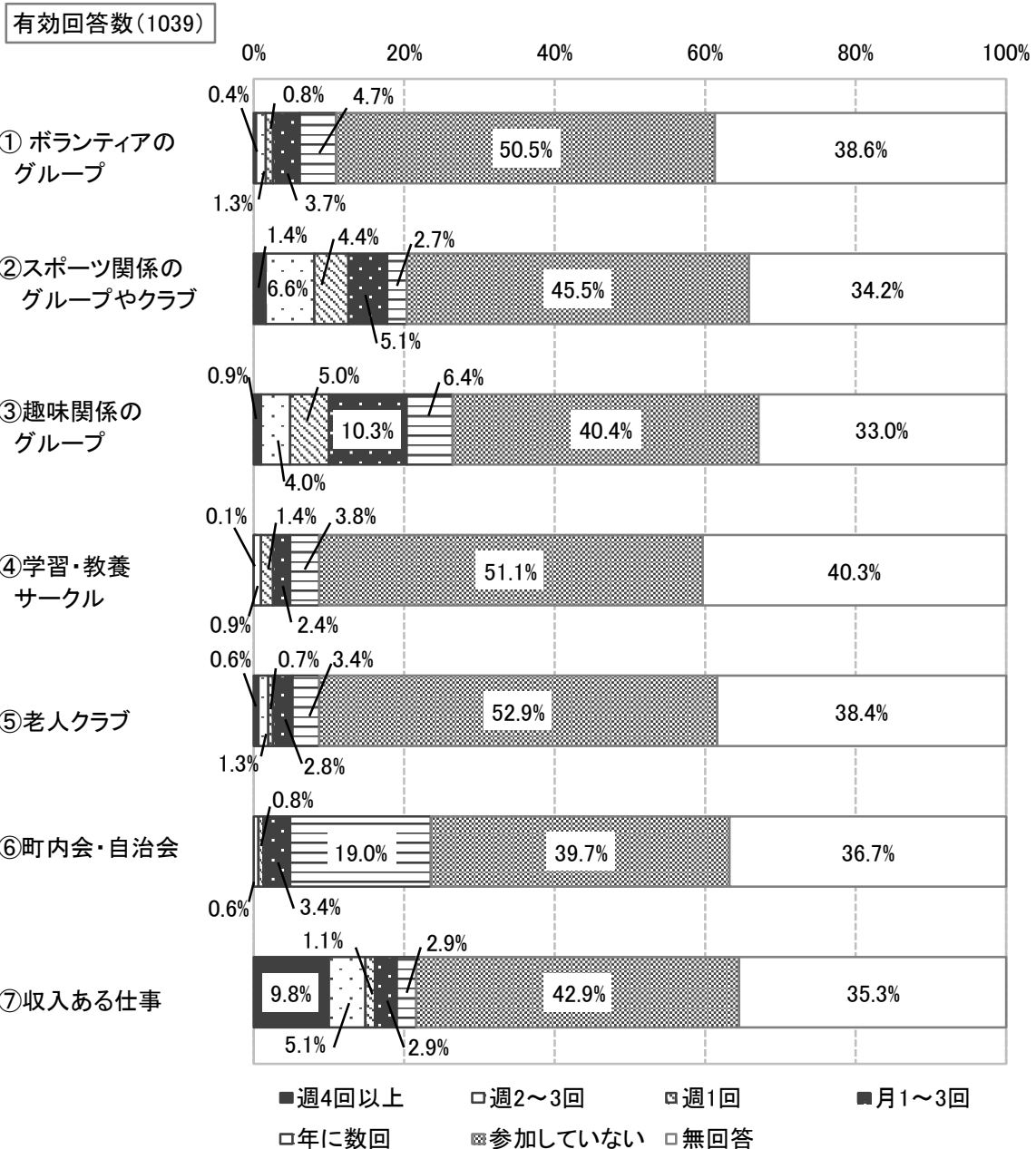


■はい □いいえ □無回答

毎日の生活についてみると、「年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか」や「健康についての記事や番組に関心がありますか」、「病人を見舞うことができますか」では、全体の約8割が「はい」と回答しています。それ以外の問いにおいても、「はい」と回答する方がいずれも6割を超えています。

一方で、「友人の家を訪ねていますか」という問いに対する「いいえ」の割合が37.0%となっています。他にも、「新聞を読んでいますか」、「本や雑誌を読んでいますか」、「趣味はありますか」、「生きがいがありますか」という問いに対する「いいえ」の割合がそれぞれ2割を超えています。

問5(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ1つ)



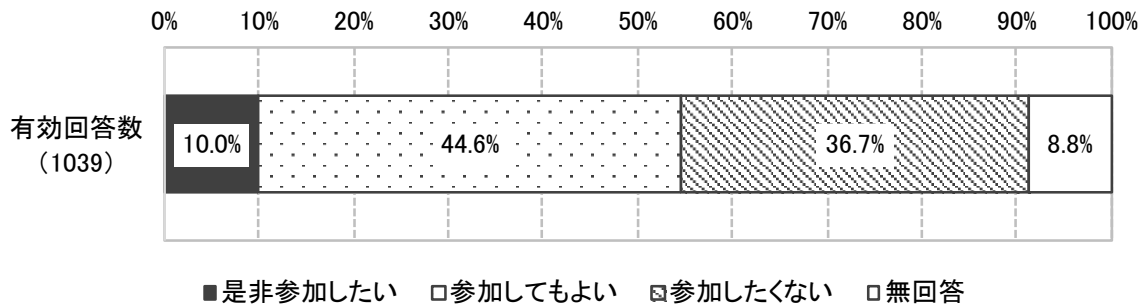
全ての問いにおいて、「参加していない」と回答する割合が約4～5割と最も多くなっています。特に、「①ボランティアのグループ」、「④学習・教養サークル」、「⑤老人クラブ」においては、「参加していない」と回答する割合が5割以上となっています。しかしながら、前回調査(平成25年12月実施)では、全ての問いについて「参加していない」という回答が7割以上であったことに比べて、参加率は上昇しています。

一方で、参加している活動中で最も多いのは、⑥町内会・自治会における「年に数回」という回答で19.0%となっています。

「週4回以上」の中では、「⑦収入のある仕事」が他の活動と比べて9.8%と最も多くなっています。

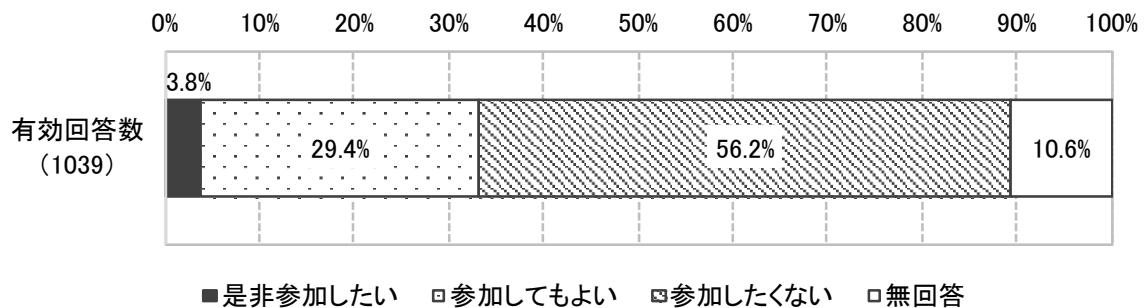
「週2～3回」の中では、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が6.6%と他の活動に比べて参加する割合が多くなっています。

問5(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つ)



地域づくり活動への「参加者」としての参加意向では、「是非参加したい(10.0%)」と「参加してもよい(44.6%)」を合わせて、約5割の方が「参加」の意向を示しています。一方で、「参加したくない」と回答した方は36.7%となっています。

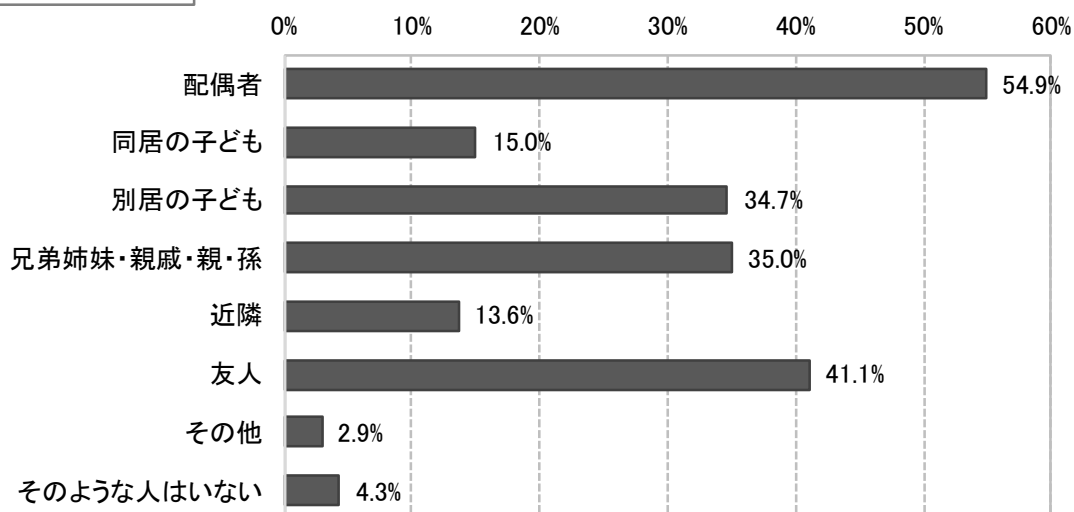
問5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つ)



地域づくり活動への「企画・運営(お世話役)」としての参加意向では、「是非参加したい(3.8%)」と「参加してもよい(29.4%)」を合わせて、約3割の方が「参加」の意向を示しています。一方で、「参加したくない」と回答した方は56.2%と、「参加者としても参加したくない」という前問の回答よりも「不参加」意向の割合が2割増加しています。

問6(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(いくつでも)

有効回答数(991)

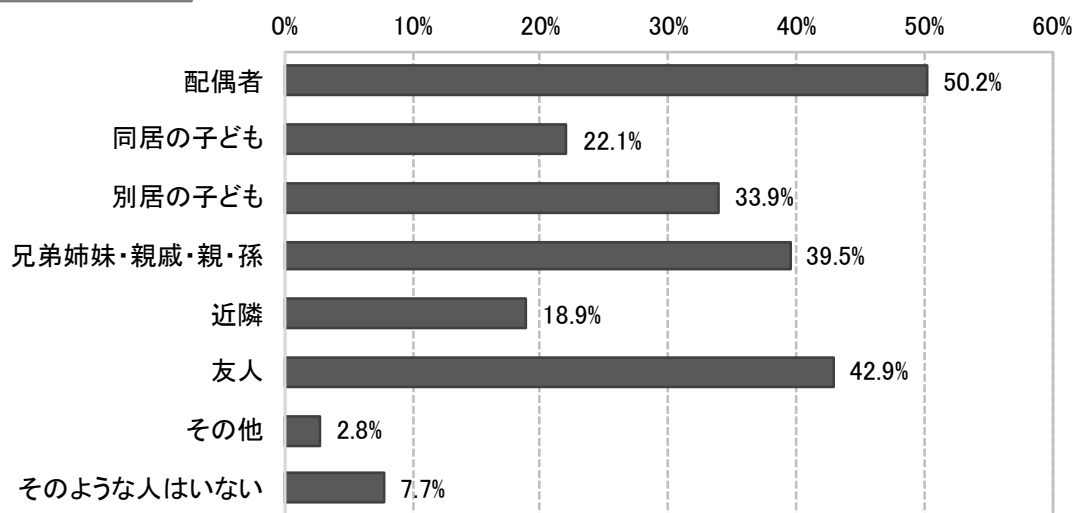


回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人について、「配偶者」が54.9%と最も多くなっています。次いで、「友人」が41.1%となっており、家族以外の拠り所が存在している方が約4割いることが分かります。

一方で、「そのような人はいない」と回答する方は4.3%となっています。

問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人(いくつでも)

有効回答数(970)

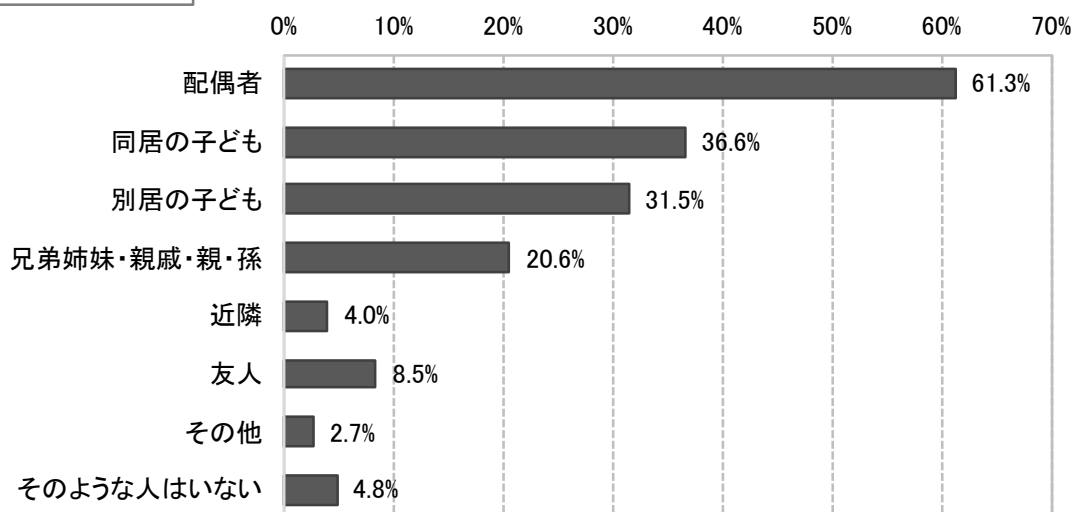


回答者が心配事や愚痴を聞いてあげる人について、前問と同様に「配偶者」が50.2%と最も多く、次いで「友人」が42.9%となっています。ここから、相互に心配事や愚痴を聞き合う関係性が形成されていることが分かります。

一方で、「そのような人はいない」と回答する方は7.7%となっています。

問6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

有効回答数(994)

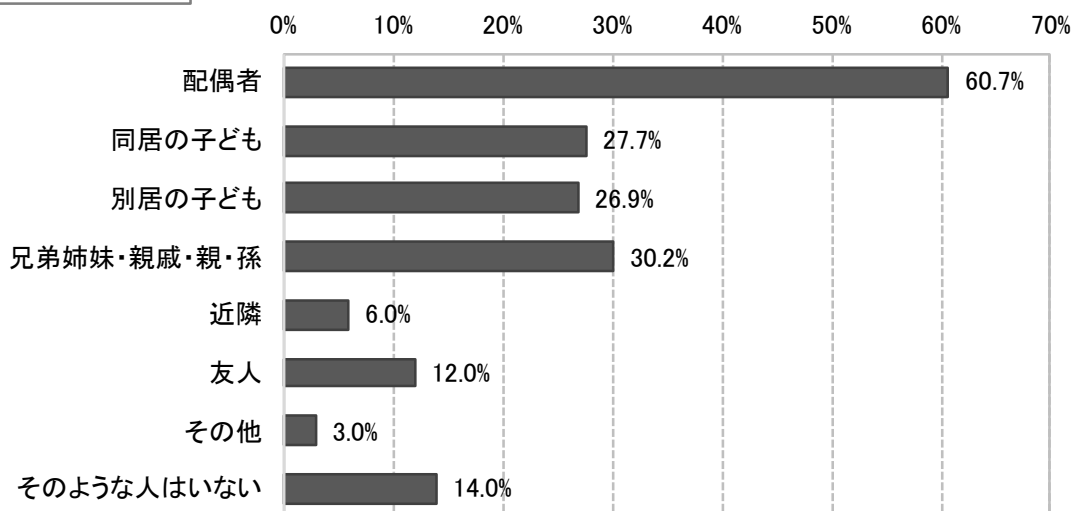


看病や世話をしてくれる人について、「配偶者」が61.3%と最も多くなっています。次いで、「同居の子ども(36.6%)」、「別居の子ども(31.5%)」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫(20.6%)」と家族による看病・世話が多くなっています。また、「友人」が8.5%、「近隣」が4.0%となっています。

一方で、「そのような人はいない」と回答する方は4.8%となっています。

問6(4) 反対に、看病や世話をしあげる人(いくつでも)

有効回答数(965)

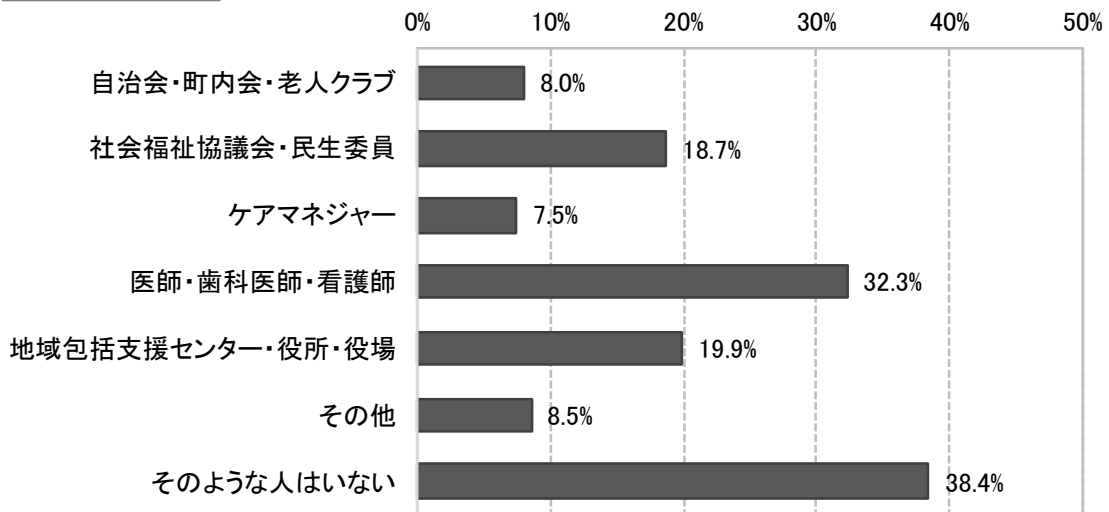


回答者が看病や世話をしあげる人については、前問と同様に「配偶者」が60.7%と最も多くなっています。次いで、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が30.2%、「同居の子ども」が27.7%、「別居の子ども」が26.9%と、家族に対する看病・世話が多くなっています。また、「友人」が12.0%、「近隣」が6.0%となっています。

一方で、「そのような人はいない」と回答する方は14.0%となっています。

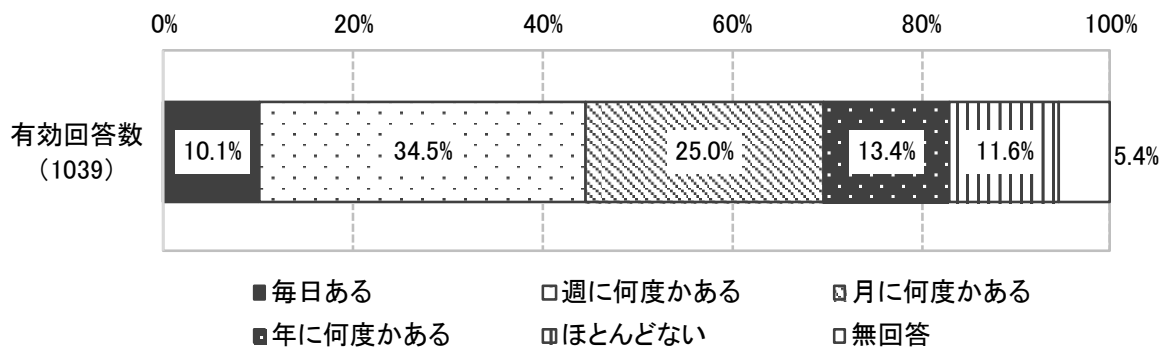
問6(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

有効回答数(926)



家族や友人・知人以外で相談する相手について、38.4%の方が「そのような人はいない」と回答し最も多く、その次に「医師・歯科医師・看護師」と回答した方が32.3%と多くみられました。

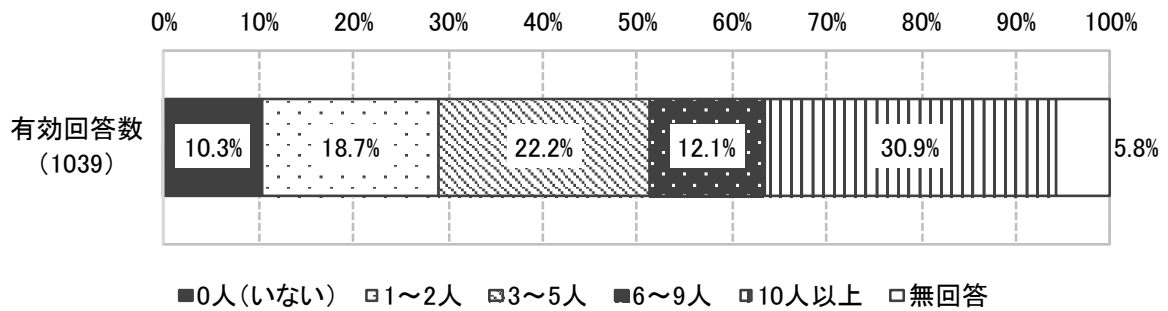
問6(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つ)



友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が34.5%と最も多くなっています。「毎日ある(10.1%)」と合わせると、約4割の方が頻繁に友人・知人と会っていることが分かります。

一方で、11.6%の方が「ほとんどない」と回答しています。

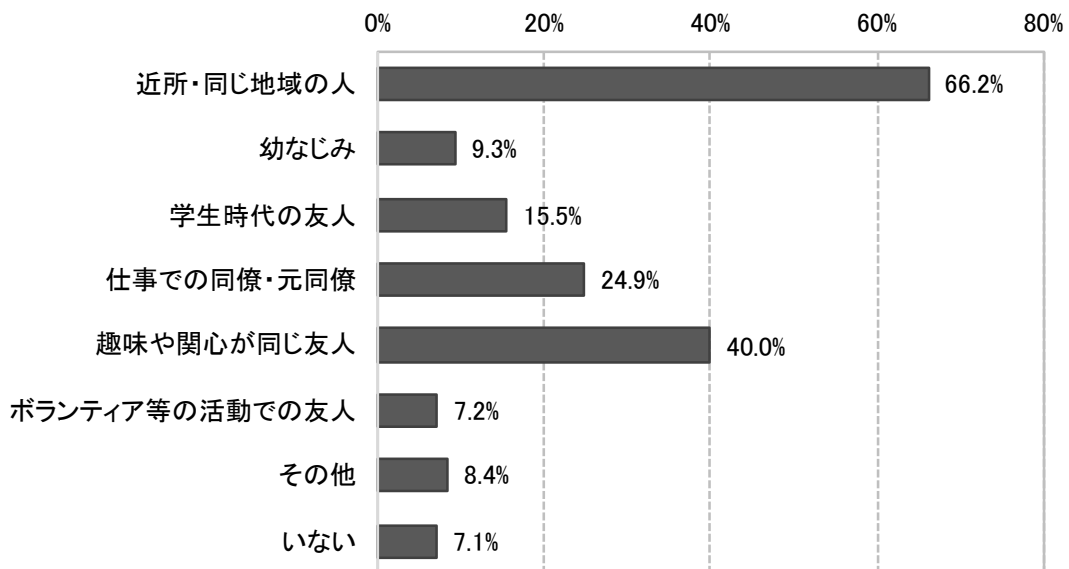
問6(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人は何度会っても一人と数えることとします。



この1か月間に会った友人・知人の数は、「10人」以上が30.9%と最も多くなっています。一方で、「0人」と回答した方は10.3%となっています。

問6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

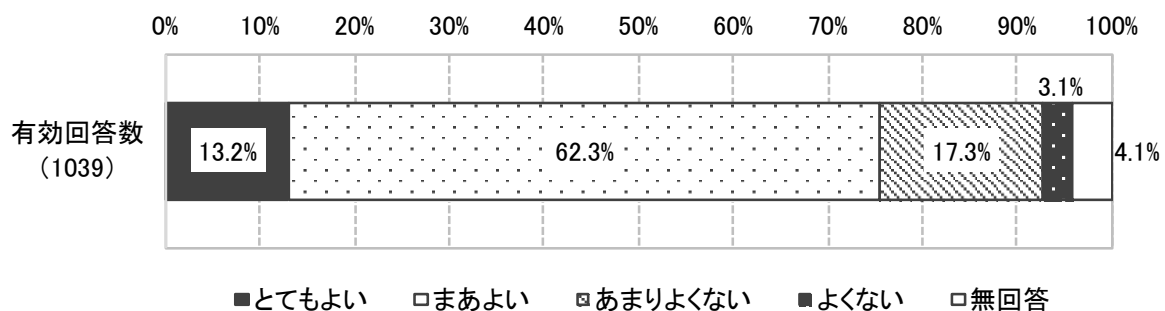
有効回答数(985)



よく会う友人・知人との関係について、「近所・同じ地域の人」が66.2%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が40.0%となっています。



問7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つ)



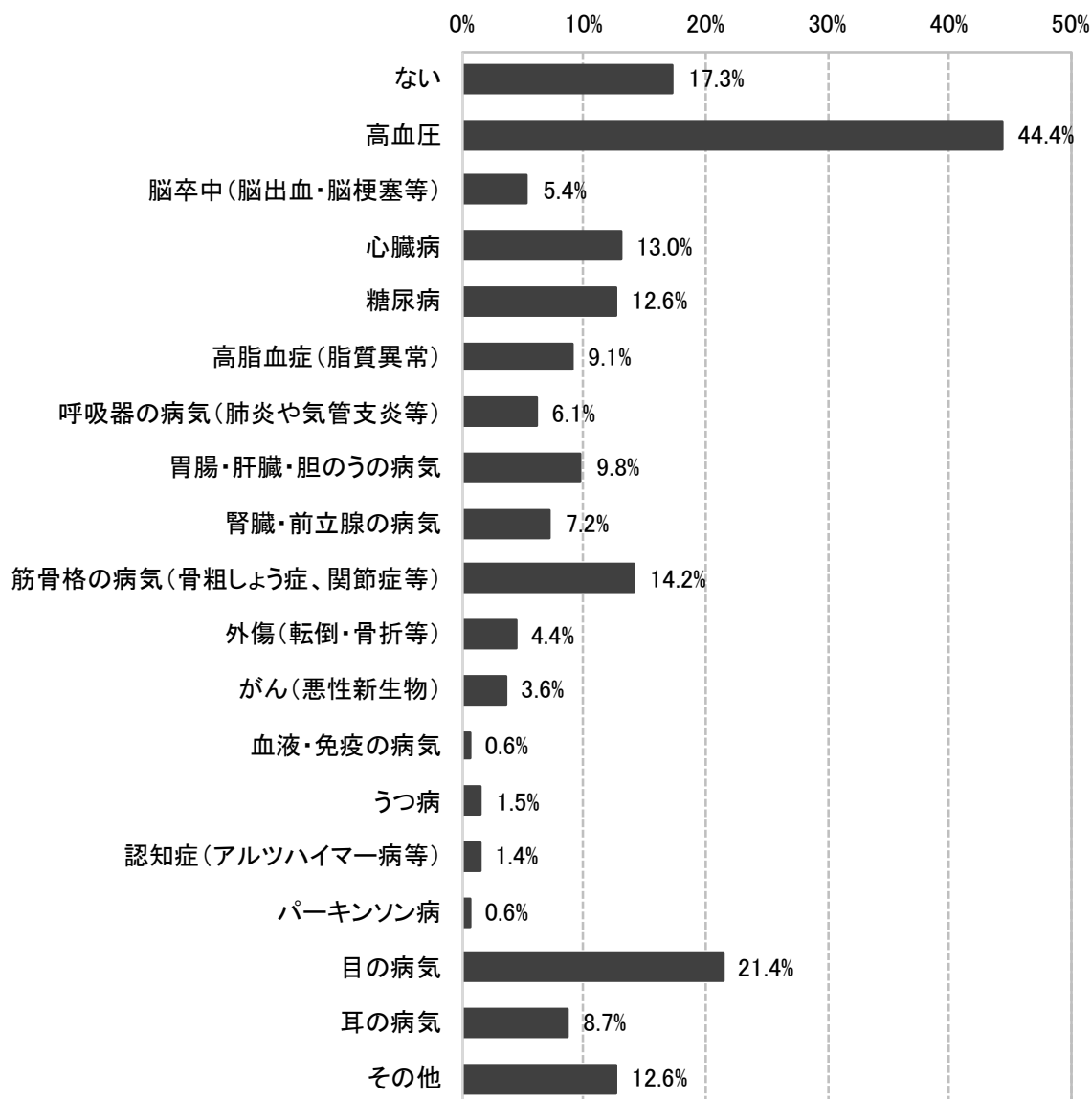
現在の健康状態について、「とてもよい (13.2%) 」と「まあよい (62.3%) 」を合わせると、約75%の方が「よい」と回答しており、前回調査 (平成25年12月実施) とほぼ同じ結果となっています。

一方で、「あまりよくない」と回答する方が17.3%、「よくない」と回答する方が3.1%となっています。



問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

有効回答数(982)



現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が44.4%と最も多くなっています。次いで、「目の病気(21.4%)」、「筋骨格の病気(14.2%)」となっています。一方で、「ない」と回答する方が17.3%となっています。

## (5) 調査結果の分析

### ①各項目判定結果について

調査結果の総括を見ると、「認知症予防」の該当率が最も高く、次いで「転倒リスク」「うつ予防」「閉じこもり予防」「口腔機能」の順に高い割合となっています。

このことから、認知症予防に取り組むことが非常に重要であることが明らかになり、認知症施策をより一層強化する必要があります。また、ボランティアや体操、趣味などの高齢者の社会参加や生きがいがいづくりにつながる活動や参加の呼びかけ、運動機能や口腔機能を改善するための取り組みの強化が状態悪化の予防・抑制につながると考えられます。

### ②主な介護の担い手について

主な介護の担い手として、「配偶者」による介護の割合が最も多くなっています。次いで「息子」「娘」と家族による介護が続ぎ、その後「介護サービスヘルパー」となっています。

このように、家族が主な介護の担い手となっているケースが多いというのが現状です。

また、家族構成について、1人暮らしの割合が前回調査から約5%増加しており、1人暮らし高齢者の生活を支えることの重要性、必要性がより増しています。

家族による介護が困難となった場合や1人暮らし高齢者の増加等に伴い、ホームヘルパーが介護を担う割合は今後もより増加すると考えられるため、ホームヘルプ等の担い手を増加するなどの介護サービスの体制を整えることが重要となり、さらに、体制を充実させることにより、家族による介護負担の軽減にも効果が期待できます。

### ③高齢者の外出・社会参加について

高齢者の外出については、「外出を控えている」方が2割以上であることや、外出を控える主な理由として「足腰などの痛み」を訴える方が約6割であること、さらに、転倒に対して「不安」を感じている方が約5割であることから、高齢者の外出を促すためにも、日頃からの健康づくりや転倒予防対策といった取り組みが重要となります。

また、足腰の痛み以外にも、外出を控える理由の1つに「交通手段」が挙げられていることから、移動サービスの拡充に力を入れることにより、高齢者の外出促進への効果が期待できます。

他にも外出を控える理由として「外での楽しみがない」といった回答が挙げられていることから、交流・社会参加等の外出の目的となる機会を充実させることも併せて重要であると考えられます。

さらに、地域住民の有志による地域づくり活動についても、参加者あるいは企画・運営者として、参加意向がある割合が一定数を占めています。参加意向のある層を中心に、自主的に地域づくり活動の実施段階へと進みやすくするためにも、活動実施に当たっての手続き等の簡略化や必要なサポート、企画・運営のための補助金制度等の支援に取り組むことが重要であると考えられます。

以上のような、外出・社会参加等の機会の充実は、各項目判定結果において上位に挙げられている「認知症予防」「うつ予防」「閉じこもり予防」の対策として、効果が期待できる要素の1つであると考えられます。

### ④現在治療中、または後遺症のある病気について

高齢者が現在抱えている病気として、「高血圧」が最も多くなっています。高血圧状態が続くと、重大な病気の発症リスクが高まるため、食生活の見直しや適度な運動を心掛ける等、日頃からの対策が必要・重要となります。

そのため、健康に関する学習会の開催や、介護予防教室の企画・実施、高齢者の見守りを兼ねた食生活の調査・助言の実施、ウォーキングイベントの開催、高齢者のスポーツクラブの支援等、高齢者が無理なく自分の健康管理を継続できるような環境づくりを、より一層推進することが重要と考えられます。

## 2) 在宅介護実態調査結果

### (1) 調査の概要

#### ①調査の目的

那須町第7期高齢者福祉・介護保険事業計画策定に向け、ここでは主に「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」のために必要となる介護サービスを把握・分析するため、在宅で生活している要支援・要介護者を対象とした「在宅介護実態調査」を実施しました。

#### ②調査対象

本調査の対象は、在宅で生活している要介護者のうち「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をし、平成28年4月から平成29年2月までに認定調査を受けた人です。

したがって、以下の項目に当てはまる方は調査の対象とはなっていません。

- ・医療機関に入院している人
- ・特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護療養型医療施設・特定施設・グループホーム・地域密着型特別養護老人ホームに入所または入居している人  
(なお、特定施設入居者生活介護または地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付高齢者向け住宅などの入居者は在宅として、本調査の対象としています。)

#### ③アンケート回収状況

対象者数	有効回収数	有効回答率
477件	239件	50.1%

#### ④調査の実施年月日

##### 1) 調査手法:

(手法1) 平成29年1月から2月に更新・区分変更の人は、認定調査時に実施・回収

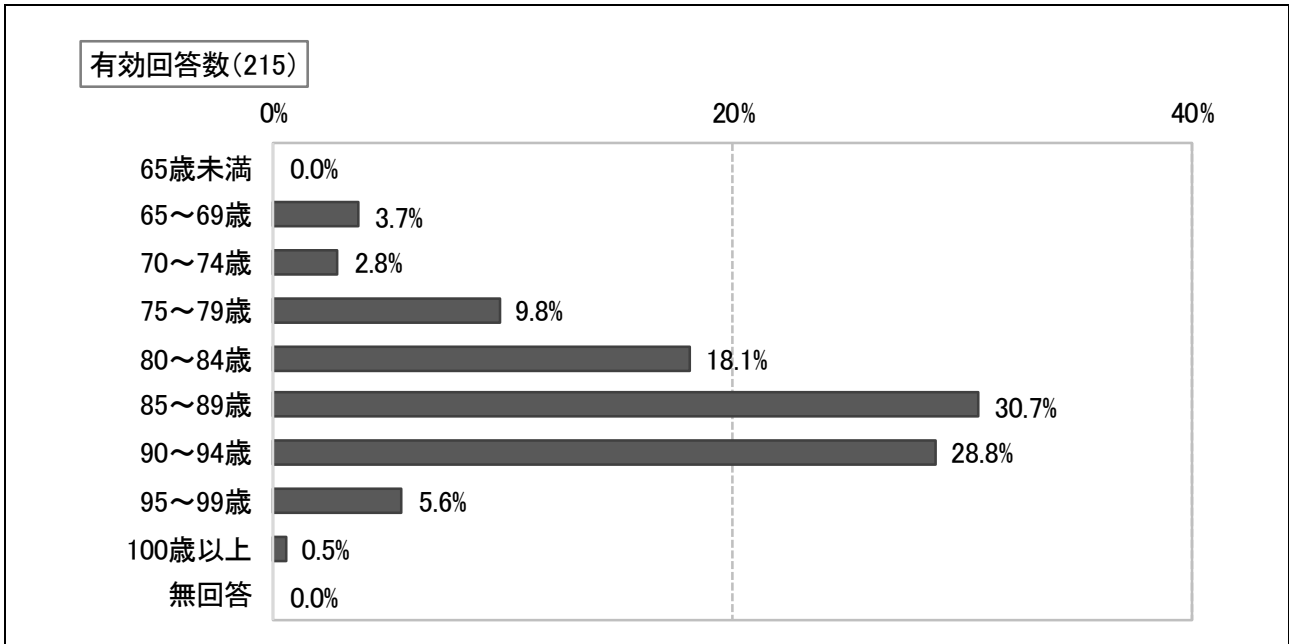
(手法2) 手法1に該当しない人は郵送による配布・回収

##### 2) 調査期間: 平成29年1月中旬から平成29年2月末日

## (2) 在宅介護実態調査結果の概要

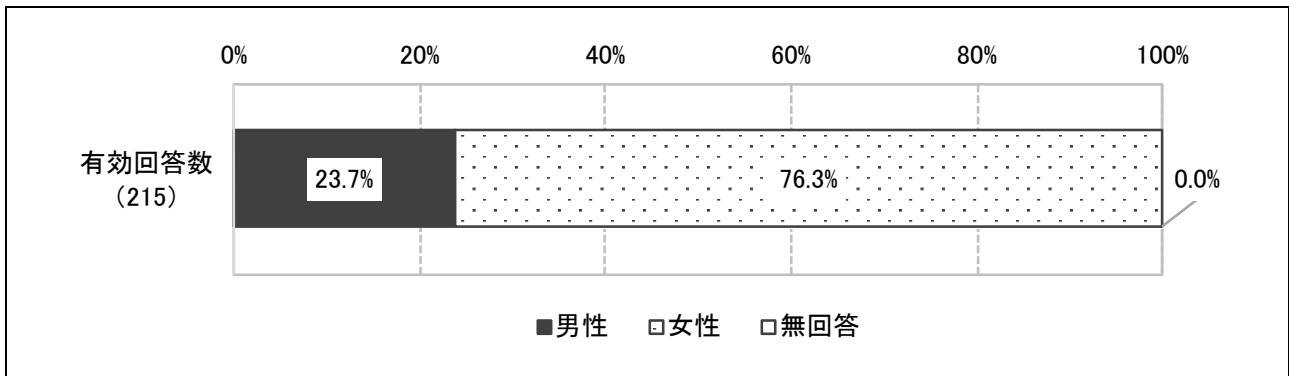
### ①要介護者について

#### 【要介護者の年齢】



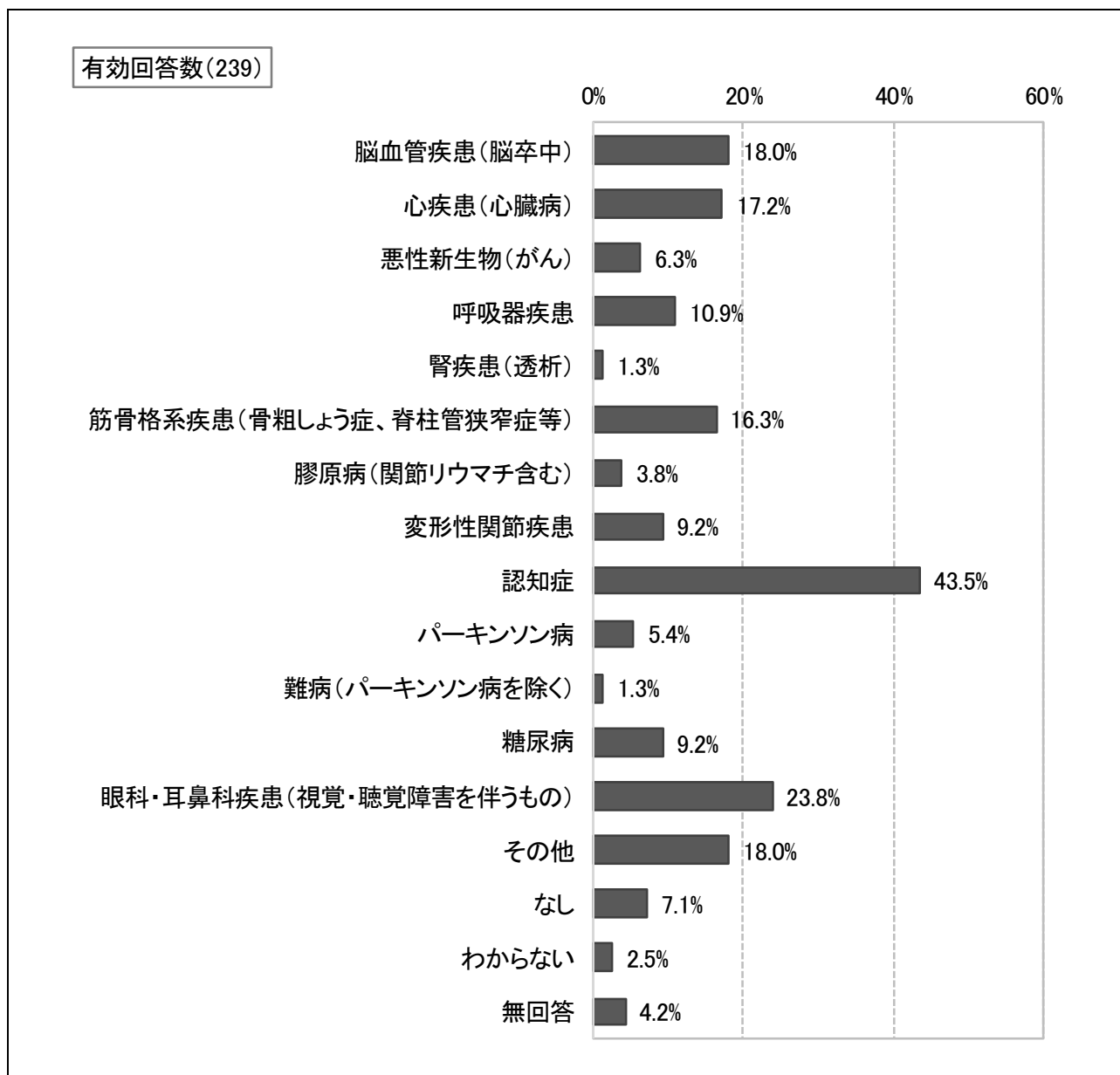
要介護者の年齢は、「85～89歳」が30.7%と最も多く、次いで「90～94歳 (28.8%)」、「80～84歳 (18.1%)」、「75～79歳 (9.8%)」、「95～99歳 (5.6%)」、「65～69歳 (3.7%)」、「70～74歳 (2.8%)」、「100歳以上 (0.5%)」となっています。

#### 【要介護者の性別】



要介護者の性別は、「男性」が23.7%、「女性」が76.3%となっています。

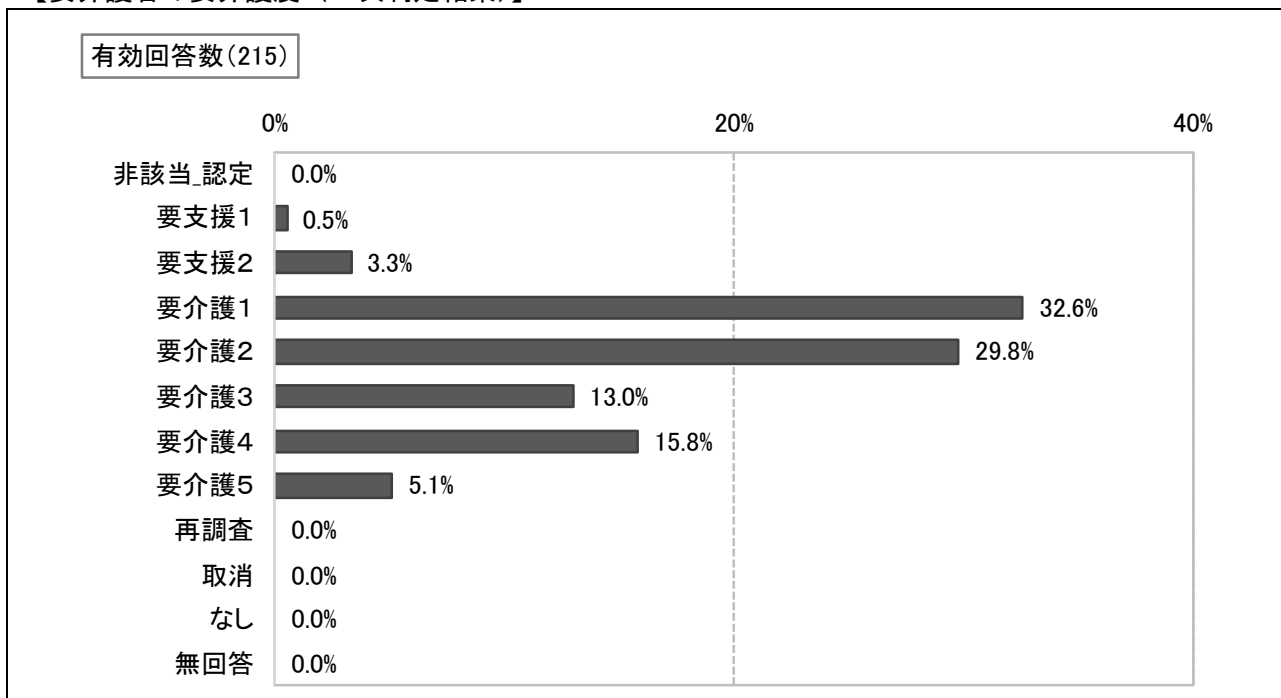
【要介護者が抱えている傷病（複数回答）】



要介護者が抱えている傷病をみると、「認知症」が43.5%と最も多くなっています。次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が23.8%、「脳血管疾患（脳卒中）」と「その他」が18.0%と並び、「心疾患（心臓病）」が17.2%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が16.3%、「呼吸器疾患」が10.9%と続きます。

一方で、「なし」と回答する方は7.1%となっています。

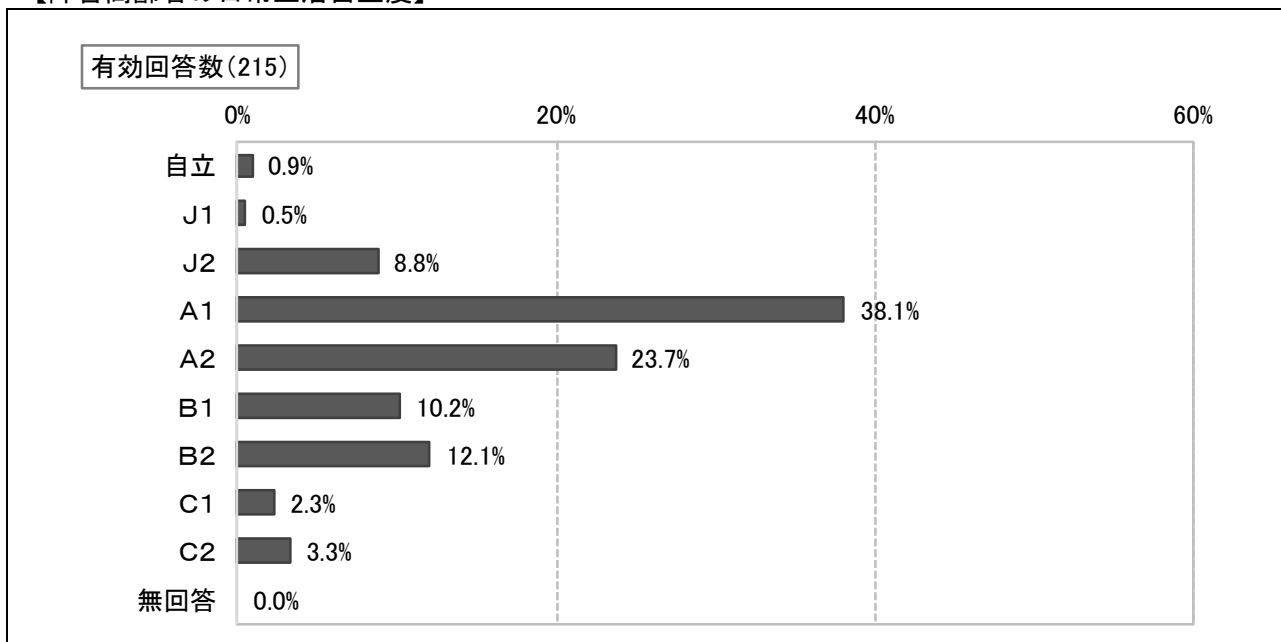
### 【要介護者の要介護度（二次判定結果）】



要介護者の要介護度をみると、「要介護1」が32.8%と最も多くなっています。次いで、「要介護2（29.8%）」、「要介護4（15.8%）」、「要介護3（13.0%）」、「要介護5（5.1%）」、「要支援2（3.3%）」、「要支援1（0.5%）」となっています。

特別養護老人ホームの入所基準である要介護3以上の割合は33.9%と3人に1人は特別養護老人ホームに入所が認められます。

### 【障害高齢者の日常生活自立度】

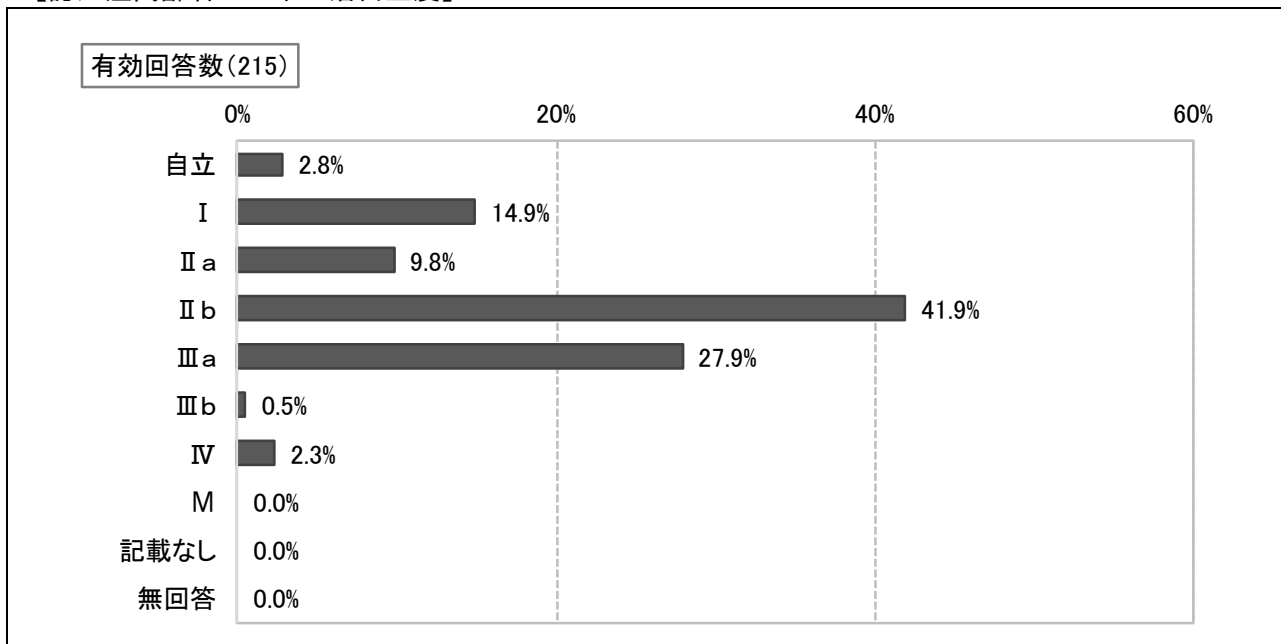


障害高齢者の日常生活自立度をみると、「ランクA1（介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する）」が38.1%と最も多くなっています。次いで「ランクA2（外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている）」が23.7%となっています。

また、1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する「ランクC1（自力で寝返りをうつ）」の方は2.3%、「ランクC2（自力では寝返りもうてない）」の方は3.3%となっています。

一方で、全く障害を有しない「自立」の方は、0.9%、何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており、独力で外出する「ランクJ1（交通機関等を利用して外出する）」の方は0.5%、「ランクJ2（隣近所へなら外出する）」の方は8.8%となっています。

【認知症高齢者の日常生活自立度】



認知症高齢者の日常生活自立度をみると、「ランクII b（家庭内でも、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる）」の方が41.9%と最も多くなっています。次いで、「ランクIII a（日中を中心として、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする）」の方が27.9%と続いています。

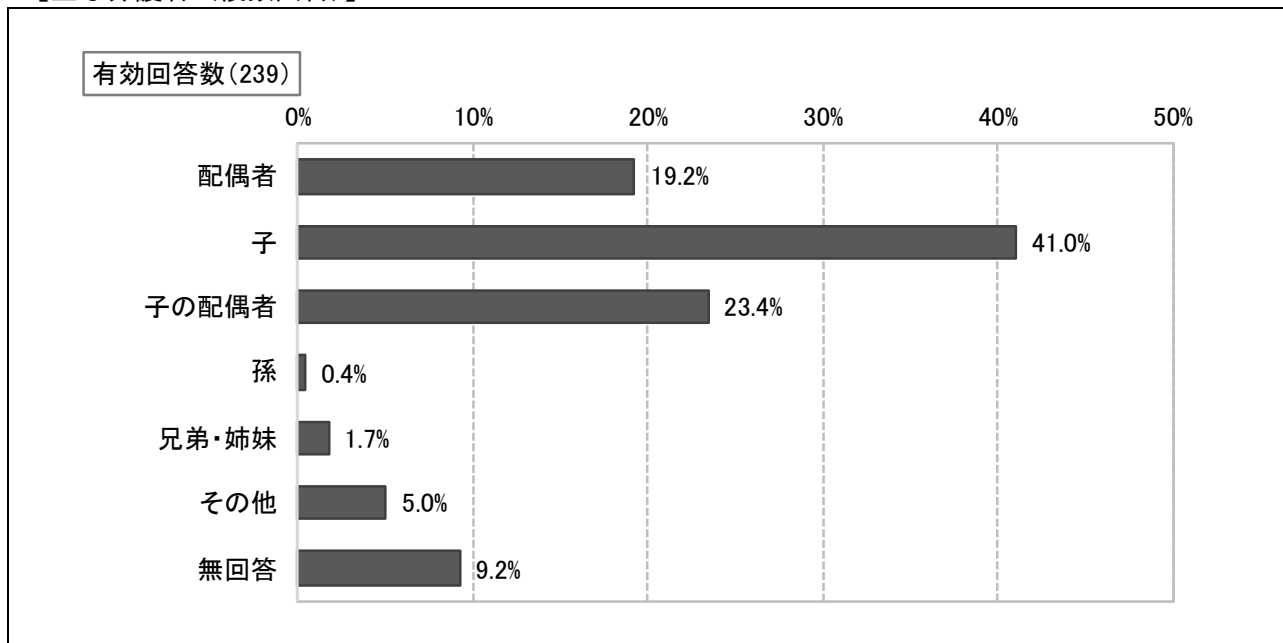
一方で、全く認知症を有しない「自立」の方は2.8%、何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している「ランクI」の方は14.9%となっています。





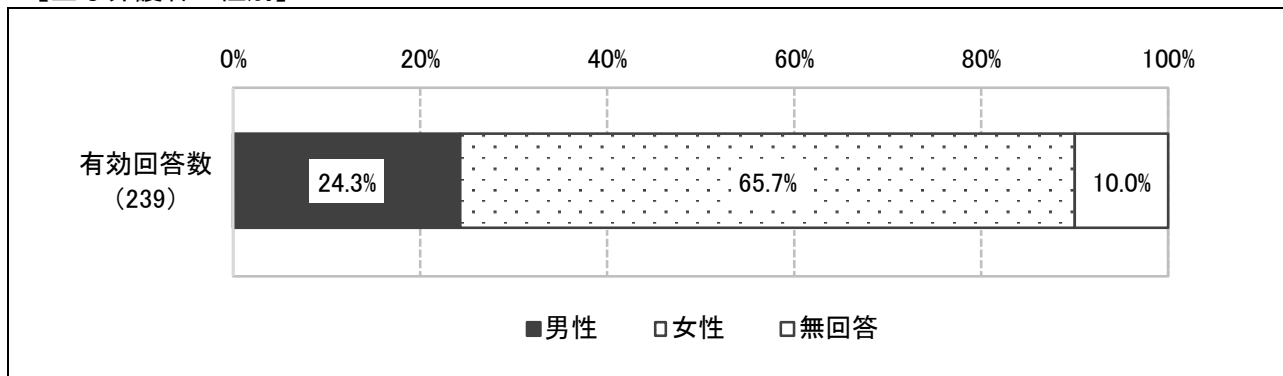
## ②介護者について

### 【主な介護者（複数回答）】



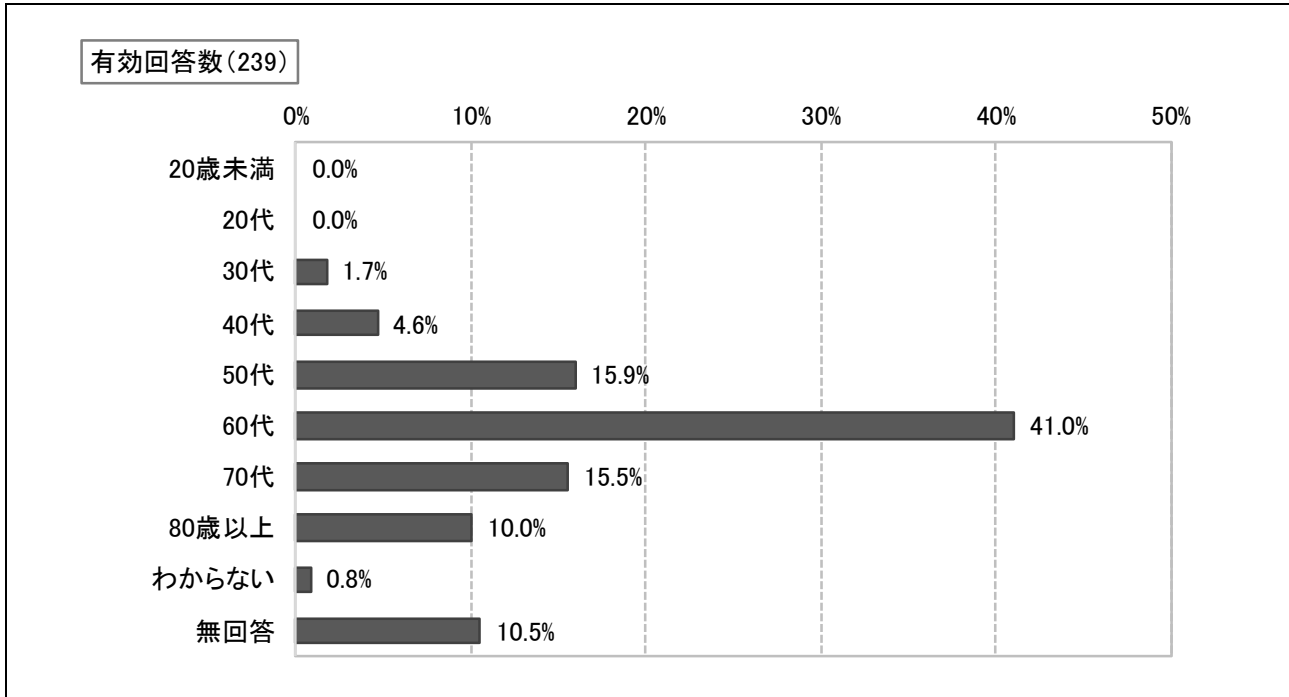
主な介護者は、「子」が41.0%と最も多く、次いで「子の配偶者（23.4%）」、「配偶者（19.2%）」となっています。

### 【主な介護者の性別】



主な介護者の性別については、「男性」が24.3%、「女性」が65.7%と、「女性」の割合が多くなっています。

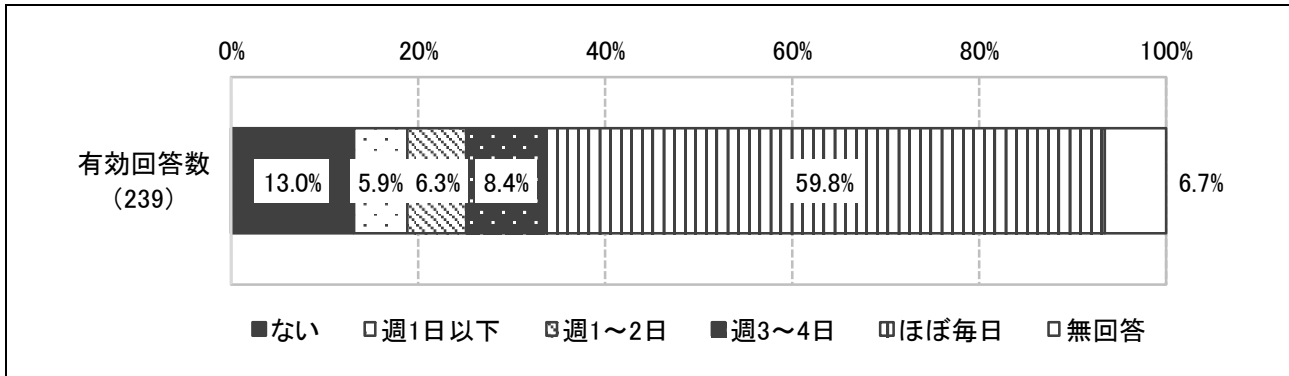
【主な介護者の年齢（複数回答）】



主な介護者の年齢では、「60代」が41.0%と最も多く、次いで「50代(15.9%)」、「70代(15.5%)」、「80歳以上(10.0%)」となっており、老老介護が行われている割合が高いことが見受けられます。

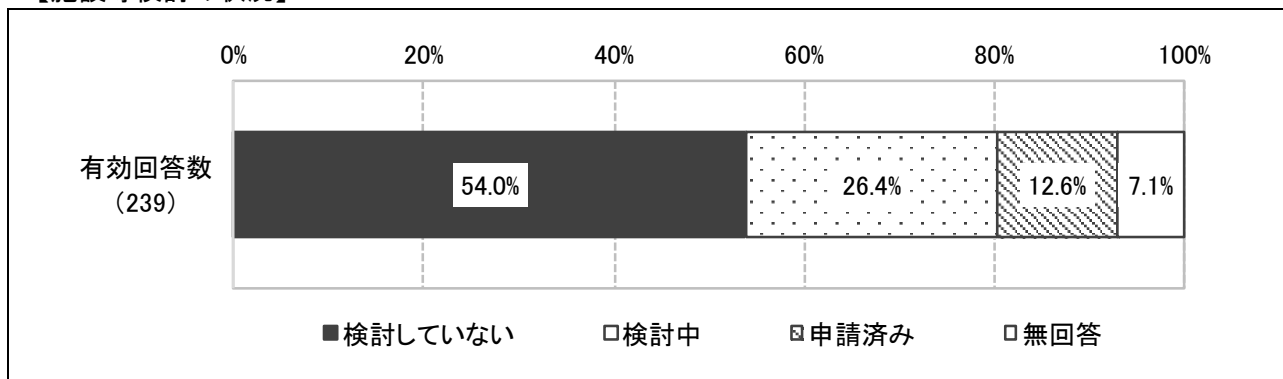
③要介護者への介護について

【家族等による介護の頻度】



家族等による介護の頻度では、「ほぼ毎日」が全体の59.8%を占めています。次いで、「ない」が13.0%となっており、「週3～4日(8.4%)」、「週1～2日(6.3%)」、「週1日以下(5.9%)」と続きます。

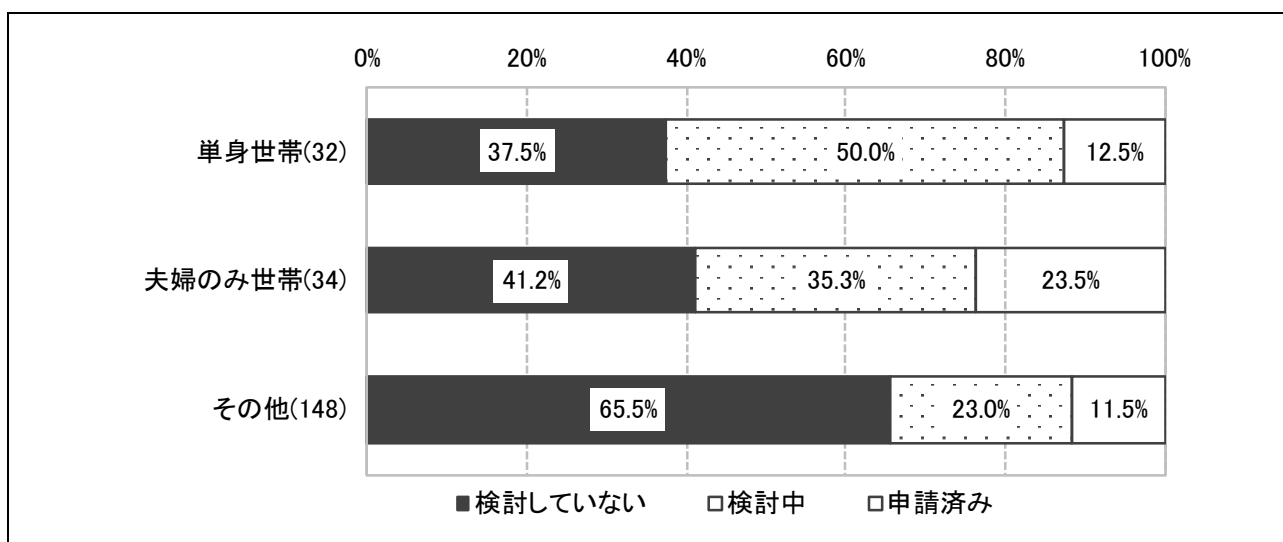
### 【施設等検討の状況】



施設等の検討状況については、「検討していない」と回答する方が全体の54.0%を占めています。次いで、「検討中」が26.4%となっています。

また、「申請済み」と回答する方は12.6%となっています。

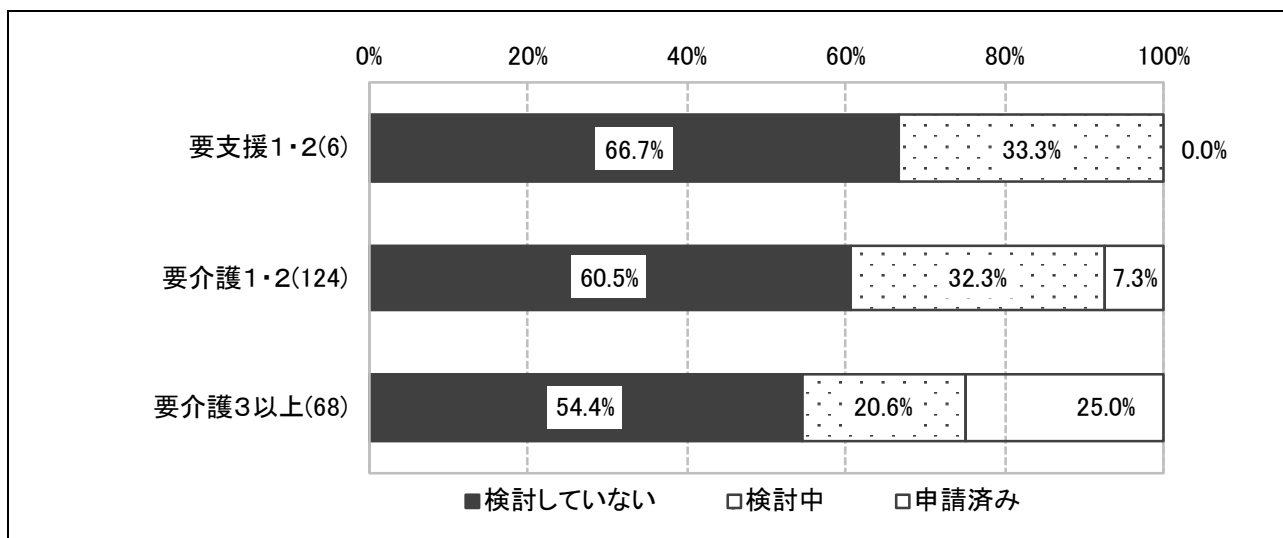
### 【世帯類型別・施設等検討の状況】



施設等検討の状況を世帯類型別で見ると、「検討中」の割合が、単身世帯では50.0%、夫婦のみ世帯では35.3%となっており、その他世帯の23.0%に比べ、世帯人員が少数になるごとに「検討中」の割合が高くなっています。

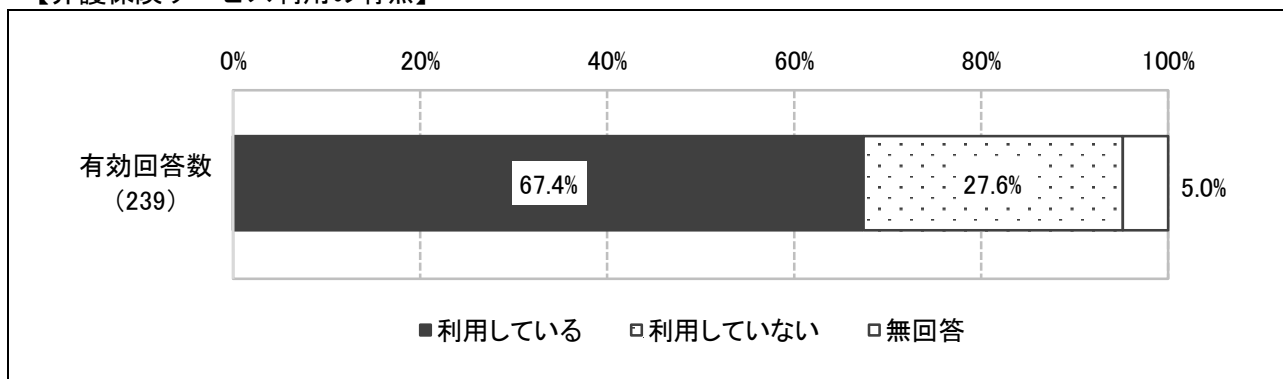
また、「申請済み」の割合については、夫婦のみ世帯が23.5%と最も高く、次いで、単身世帯が12.5%となっており、その他世帯の11.5%に比べて、「申請済み」の割合も高くなっています。

【要介護度別・施設等検討の状況】



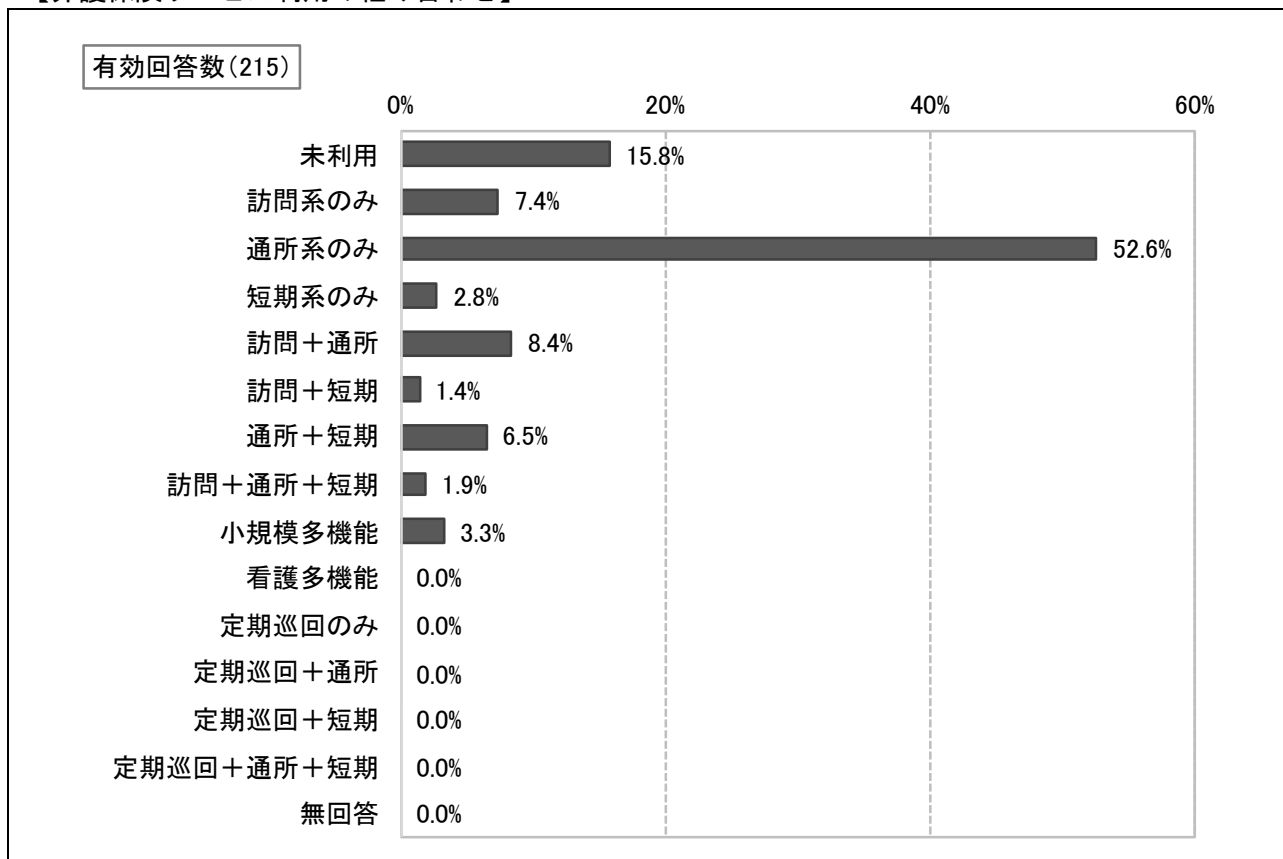
施設等検討の状況を要介護度別で見ると、要介護度が要支援1・2から要介護1・2、要介護3以上と、重度になるにつれて、「検討していない」及び「検討中」と回答する割合が減少しており、一方で「申請済み」と回答する割合が増加しています。

【介護保険サービス利用の有無】



介護保険サービスの利用の有無について、「利用している」が67.4%となっています。一方で「利用していない」と回答する方が27.6%となっています。

【介護保険サービス利用の組み合わせ】

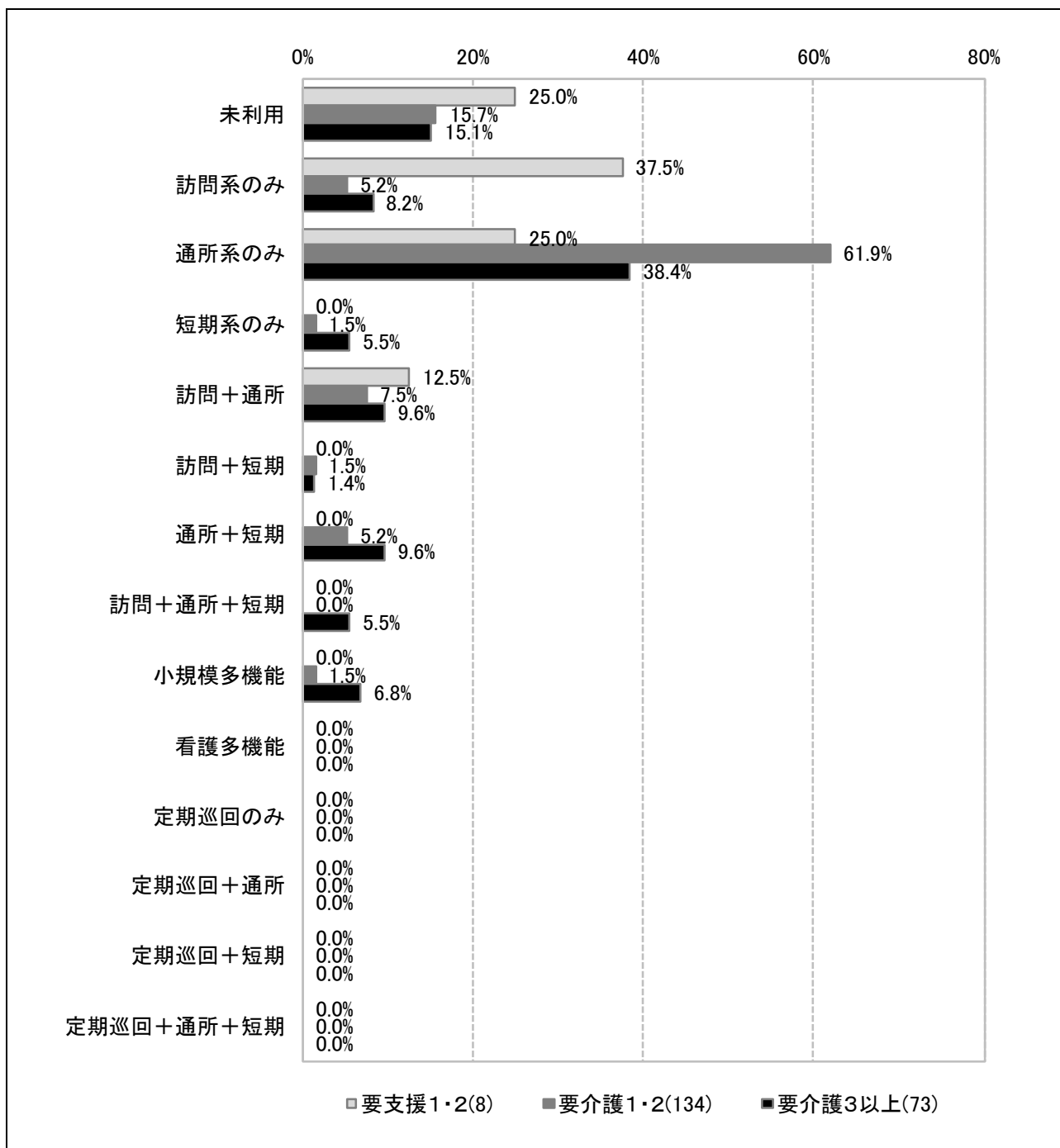


介護保険サービスの組み合わせとして、「通所系のみ」が52.6%と最も多くなっています。また、「未利用」が15.8%となっています。

「看護多機能」、「定期巡回のみ」、「定期巡回+通所」、「定期巡回+短期」、「定期巡回+通所+短期」については利用者が0人となっています。



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】



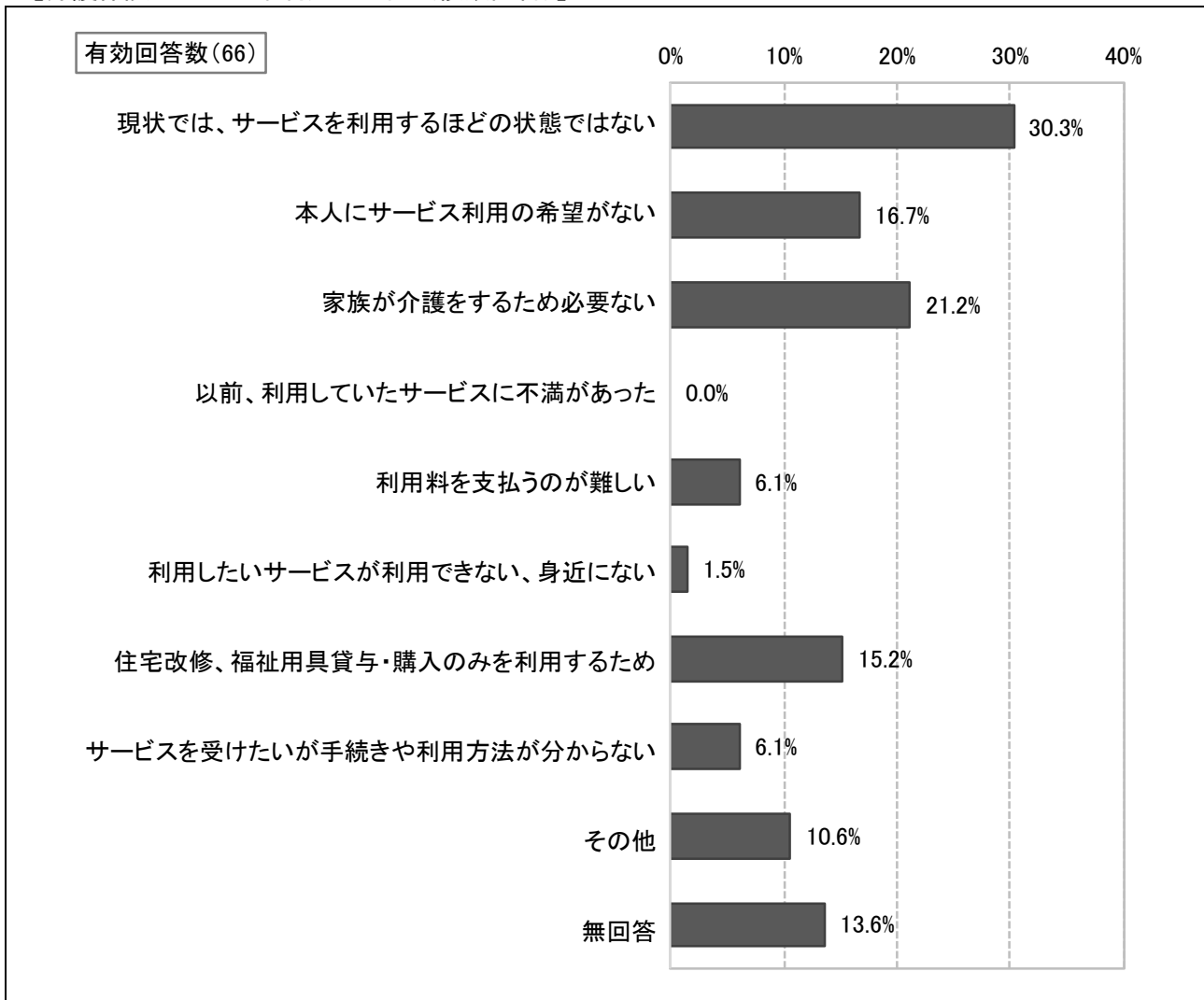
介護保険サービスの組み合わせを要介護度別で見ると、要支援1・2では「訪問系のみ」が37.5%と最も多く、次いで「通所系のみ」あるいは「未利用」が25.0%と並んでいます。

要介護1・2では、「通所系のみ」が61.9%と最も多く、次いで「未利用」が15.7%、「訪問+通所」が7.5%となっています。

要介護3以上では、「通所系のみ」が38.4%と最も多く、次いで「未利用」が15.1%、「訪問+通所」と「通所+短期」が9.6%と並んでいます。

また、要介護度の重度化に伴い、「短期系のみ」、「通所+短期系」、「訪問+通所+短期」、「小規模多機能」の利用割合が増加する傾向となっています。

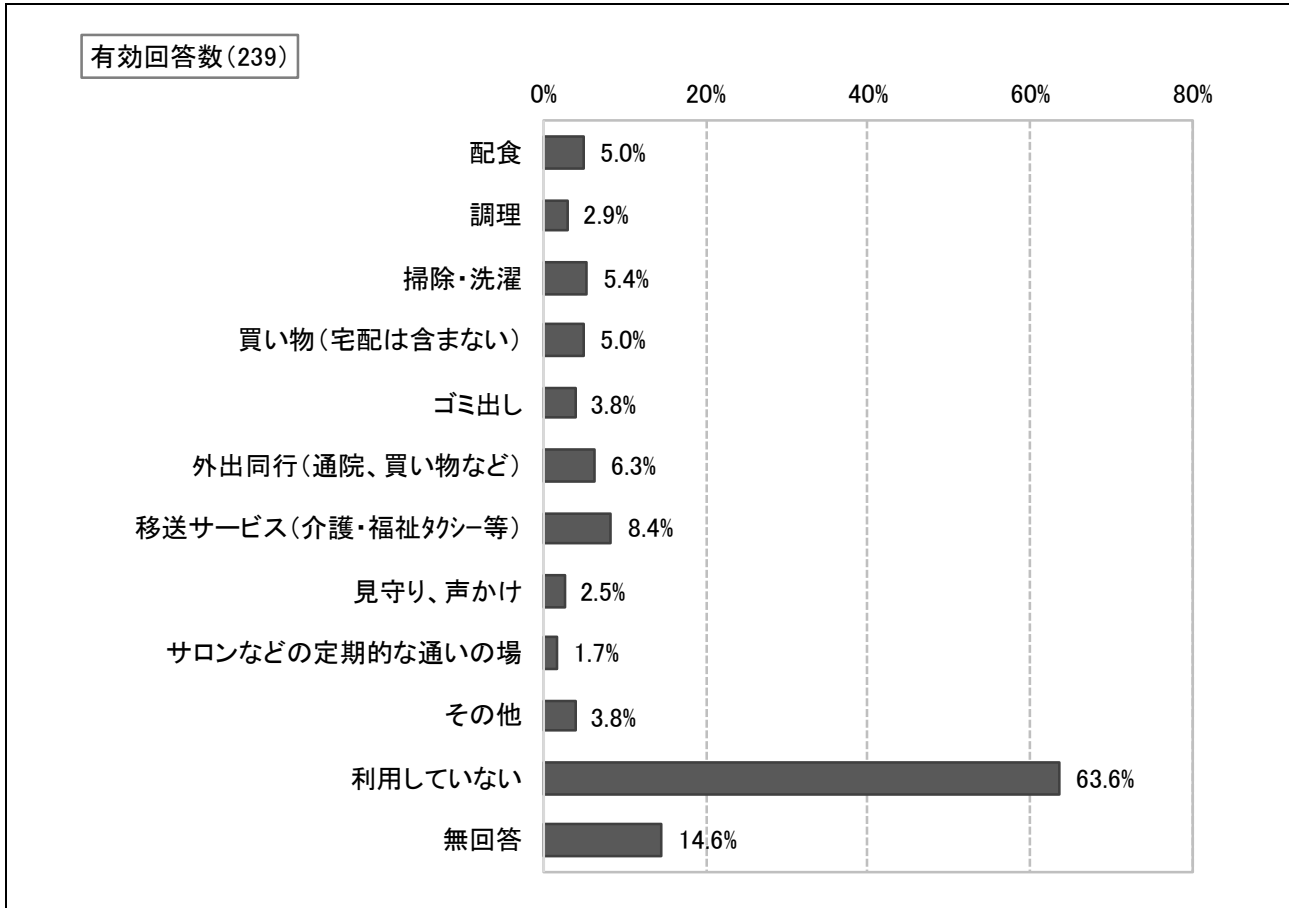
【介護保険サービス未利用の理由（複数回答）】



介護保険サービス未利用の理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が30.3%と最も多くなっています。次いで、「家族が介護をするため必要ない（21.2%）」、「本人にサービス利用の希望がない（16.7%）」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため（15.2%）」と続きます。

一方で、「利用料を支払うのが難しい」と回答する方が6.1%、また、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」と回答する方が6.1%となっています。

【保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）】



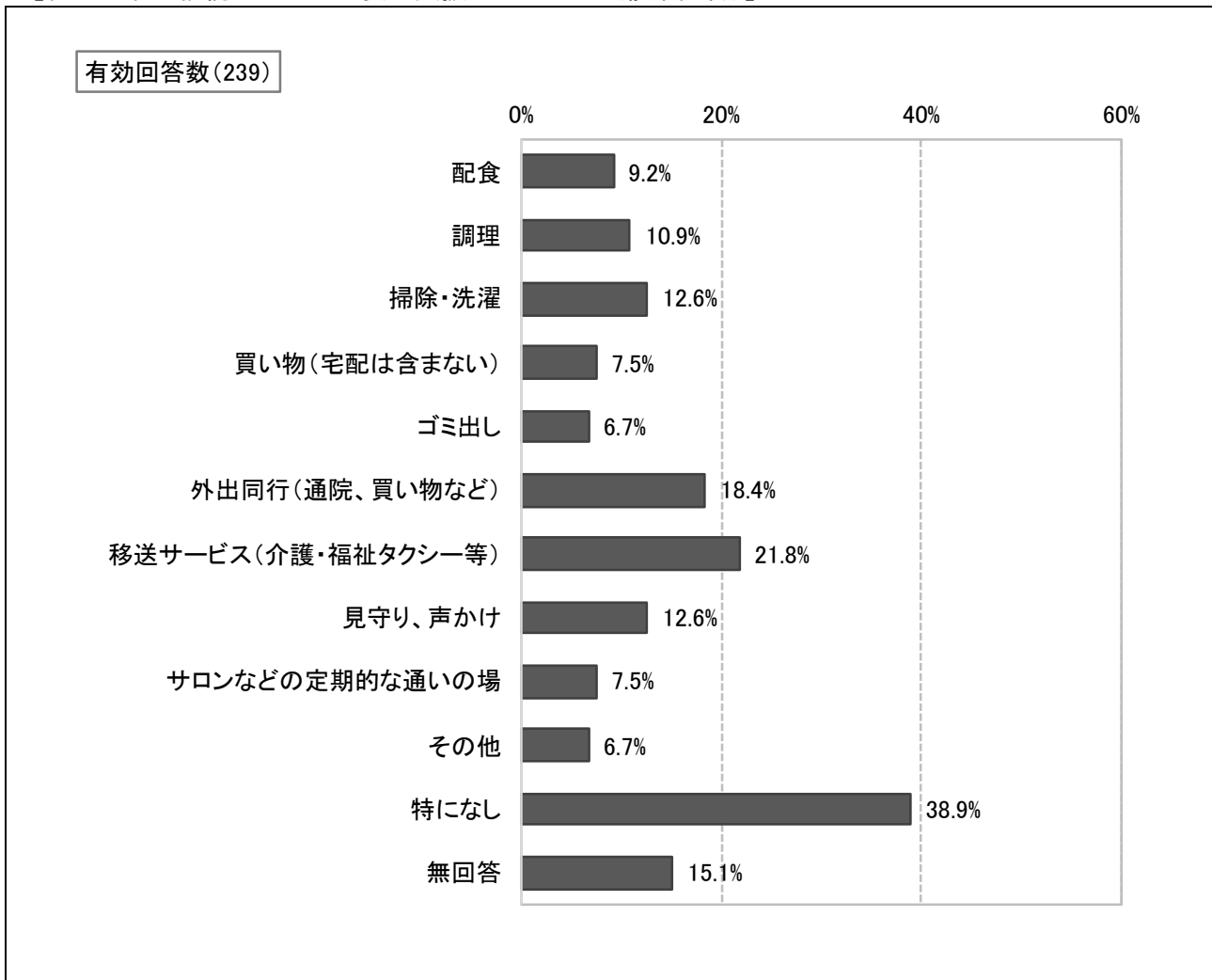
保険外の支援・サービスの利用状況について、「利用していない」が63.6%と最も多くなっています。

実際に利用されている支援・サービスの中では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が8.4%と最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が6.3%、「掃除・洗濯」が5.4%、「配食」と「買い物（宅配は含まない）」が5.0%と並んでいます。

実際に利用されている支援・サービスの中では、要介護者の外出に関する支援・サービスに対する利用傾向がやや高いことが見受けられます。



【在宅生活の継続のために必要な支援・サービス（複数回答）】

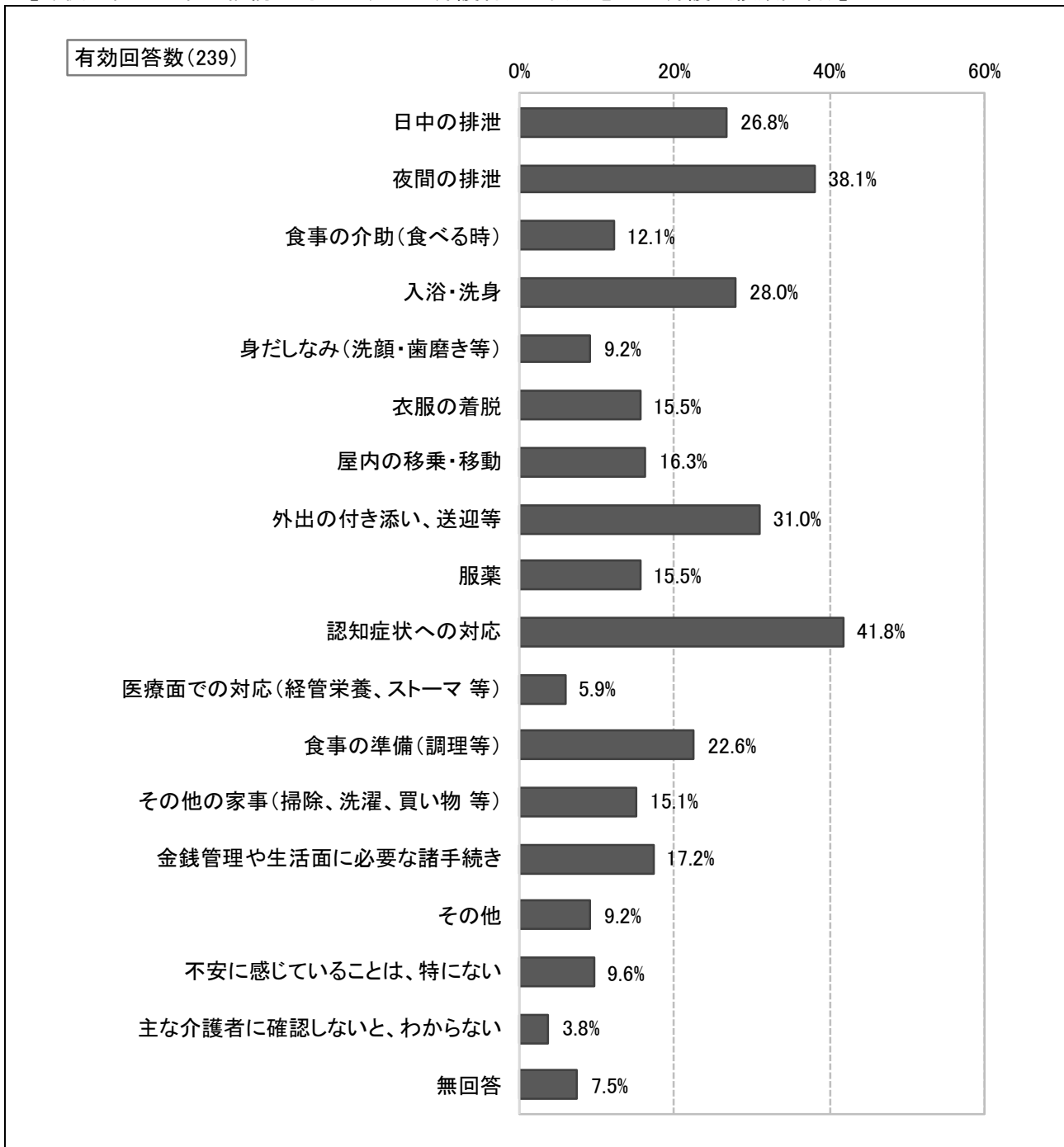


在宅生活の継続のために必要な支援・サービスについて、「特になし」が38.9%と最も多くなっています。

しかし、必要と回答する支援・サービスの中でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.8%と最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が18.4%、「掃除・洗濯」と「見守り、声かけ」が12.6%と並び、「調理」が10.9%、「配食」が9.2%となっています。

実際に利用されている支援・サービスと同様に、要介護者の外出に関する支援・サービスの必要性がやや高いことが見受けられます。

【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）】

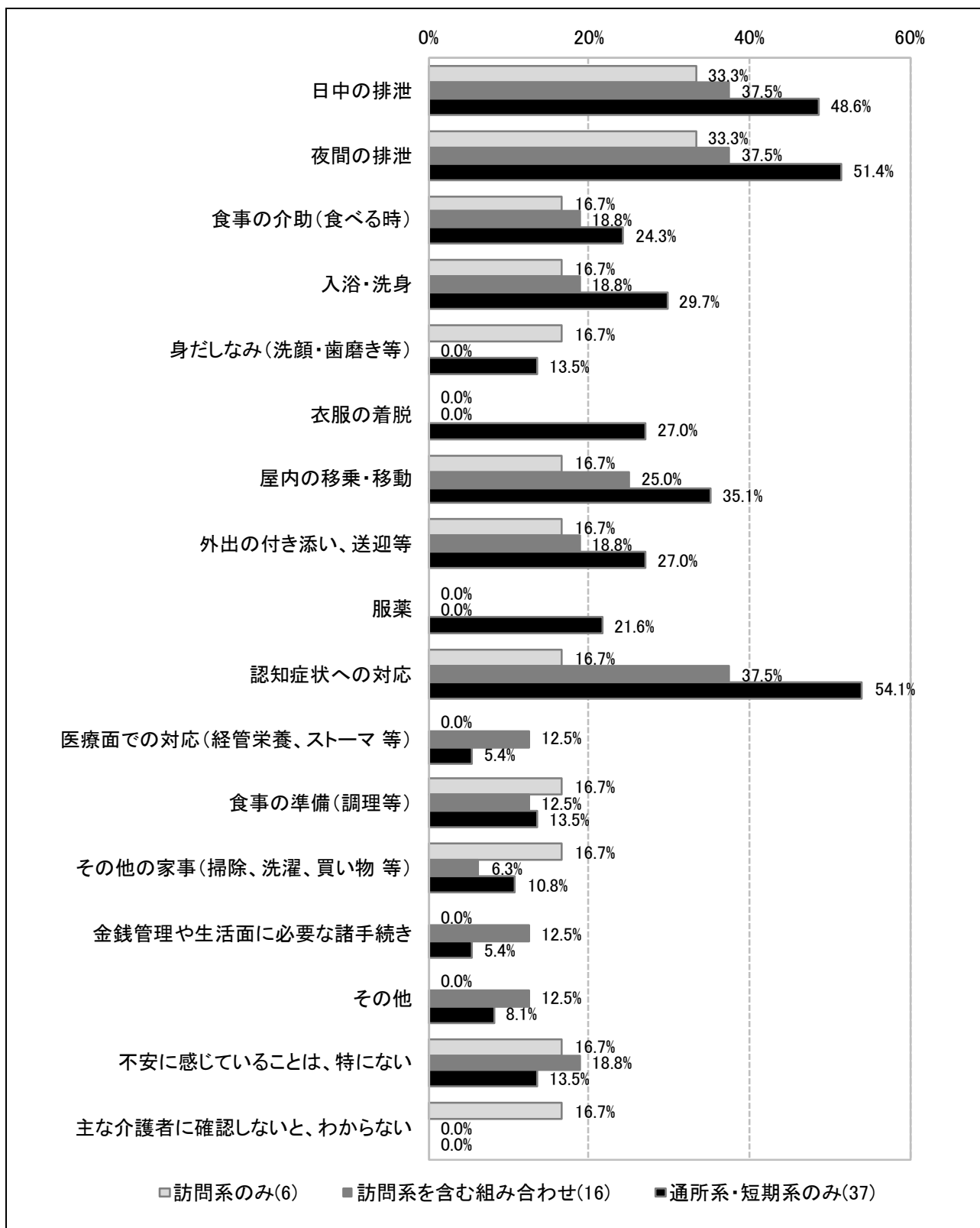


在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護として、「認知症状への対応」が41.8%と最も多くなっています。

次いで、「夜間の排泄（38.1%）」、「外出の付き添い、送迎等（31.0%）」、「入浴・洗身（28.0%）」、「日中の排泄（26.8%）」、「食事の準備（22.6%）」が続きます。

一方で、「不安に感じていることは、特にな」と回答する方が9.6%となっています。

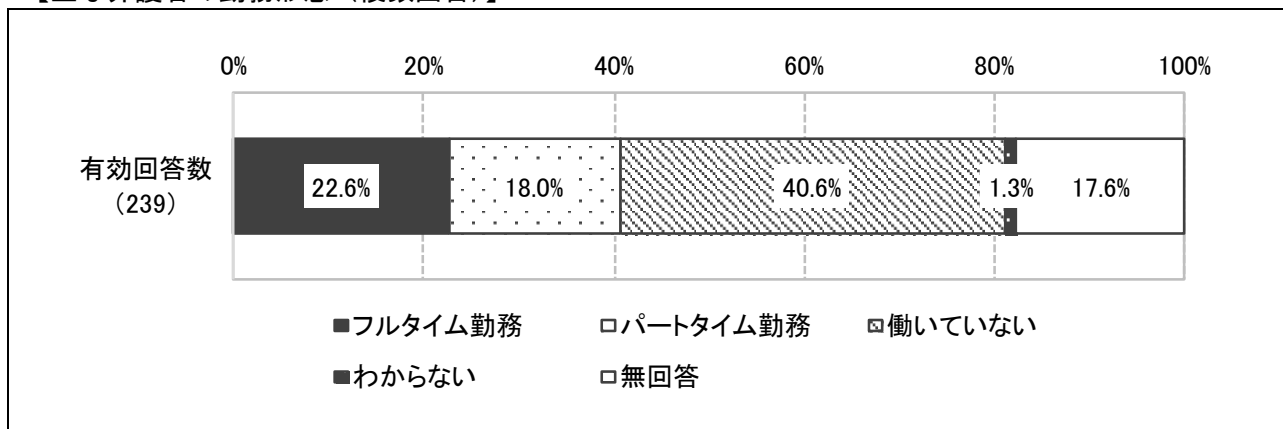
【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】



要介護3以上を対象に、介護者が不安を感じる介護を、介護保険サービス利用の組み合わせ別にみると、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い・送迎等」、「服薬」、「認知症への対応」において、「訪問系のみ」及び「訪問系を含む組み合わせ利用」の場合では、「通所系・短期系のみ」の利用と比較して、介護者の不安がより軽減される傾向がうかがえます。

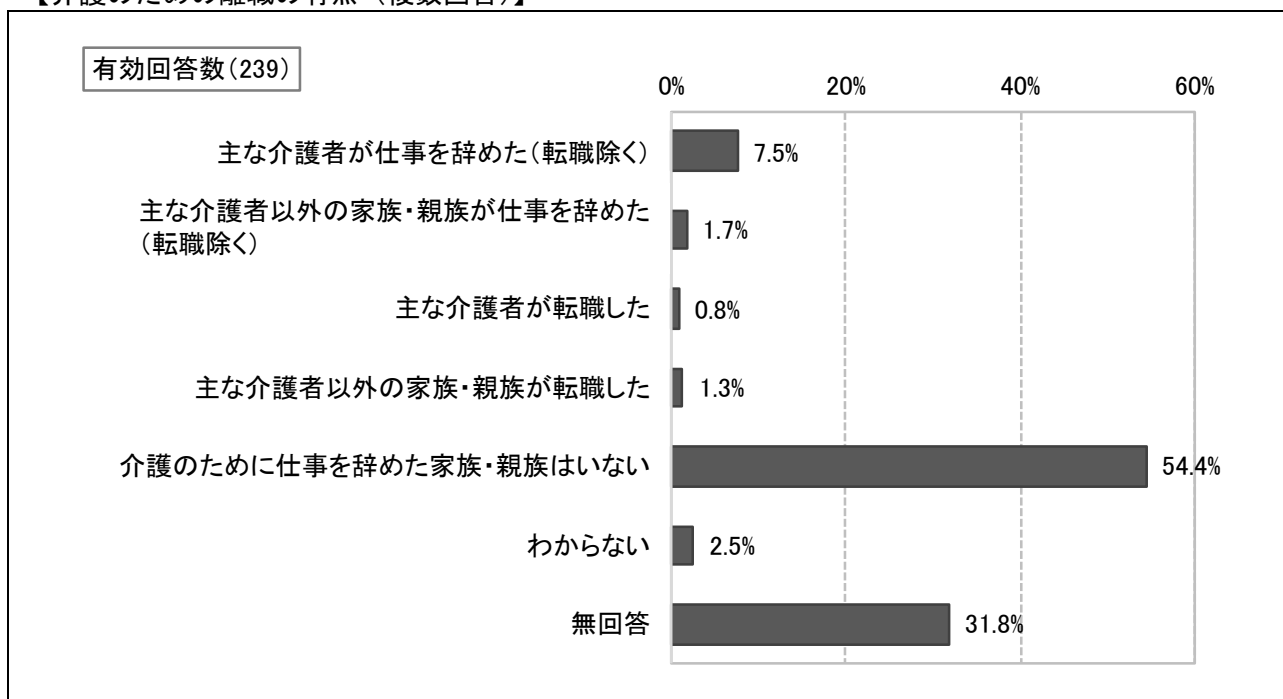
#### ④介護者における仕事と介護の両立について

##### 【主な介護者の勤務形態（複数回答）】



主な介護者の勤務形態について、「フルタイム勤務」の方が22.6%、「パートタイム勤務」の方が18.0%となっており、仕事を持ち働いている方が全体の約4割を占めています。一方で、「働いていない」と回答する方は40.6%となっています。

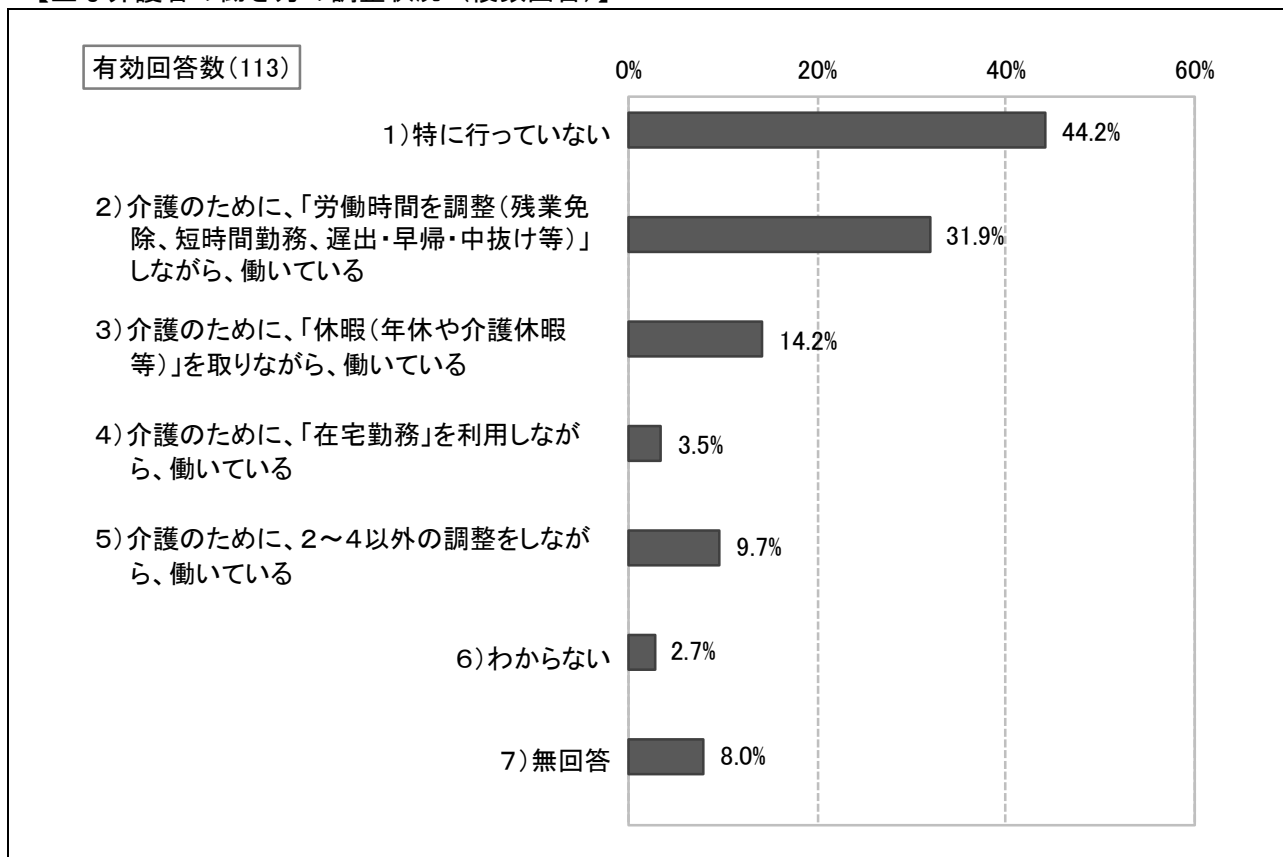
##### 【介護のための離職の有無（複数回答）】



介護による離職の有無について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答する方が54.4%と最も多くなっていますが、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」と回答する方が7.5%となっています。

また、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」と回答する方は1.7%、「主な介護者が転職した」と回答する方は0.8%となっています。

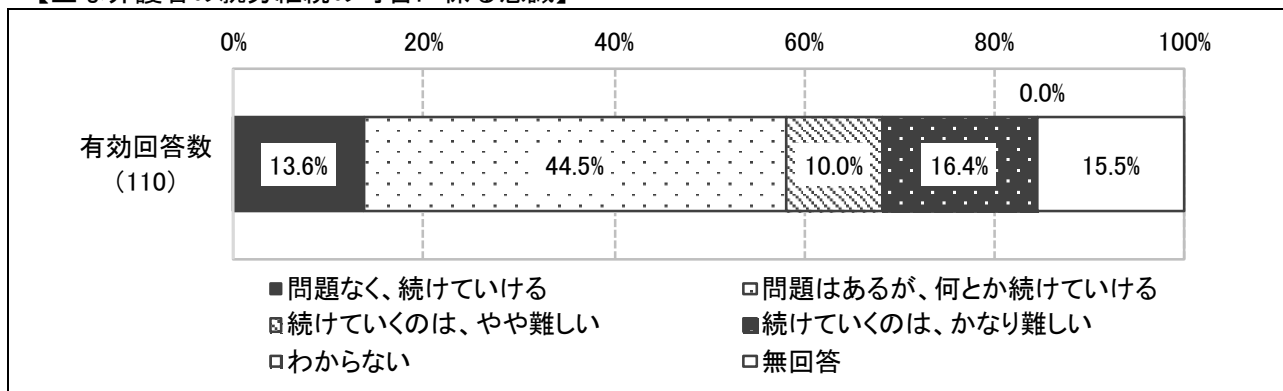
【主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）】



主な介護者の働き方の調整状況について、「特に行なっていない」が44.2%と最も多くなっています。

何かしら調整を行っているとは回答する中では、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている」と回答する方が31.9%と最も多くなっています。次いで、「休暇（年休や介護休暇等）を取りながら働いている」が14.2%、「労働時間の調整、休暇、在宅勤務以外の調整をしながら、働いている」が9.7%、「在宅勤務を利用しながら、働いている」が3.5%となっています。

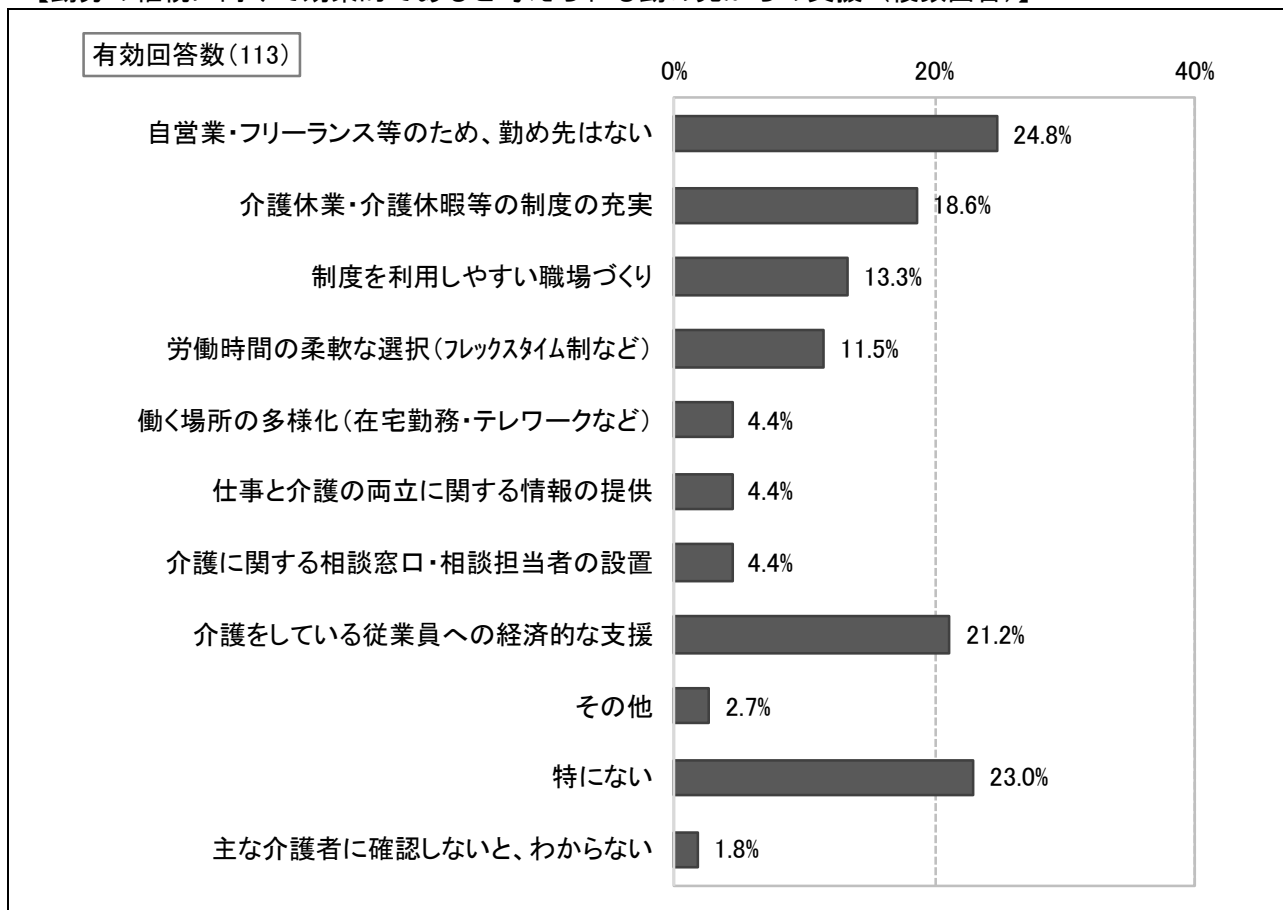
【主な介護者の就労継続の可否に係る意識】



主な介護者における就労継続の可否に係る意識について、「問題なく、続けていける」が13.6%、「問題はあるが、何とか続けていける」が44.5%となっており、「どちらかというとなら続けていける」と回答する方が全体の約6割を占めています。

一方で、「続けていくのは、やや難しい」が10.0%、「続けていくのは、かなり難しい」が16.4%となっており、「どちらかというとなら続けていくのは難しい」と回答する方は26.4%となっています。

【勤労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）】



勤労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援については、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない（24.8%）」と「特になし（23.0%）」を除くと、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.2%と最も多くなっています。

次いで、効果的と考えられる勤め先からの支援として、「介護休業・介護休暇等の制度の充実（18.6%）」、「制度を利用しやすい職場づくり（13.3%）」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が11.5%と続きます。

### (3) 調査結果の分析

#### ①主な介護者の実態

介護の現状として、要介護者の家族が主な介護の担い手となっている割合が高く、性別では「女性」、年代では「50～80代」による介護の割合が多くなっており、老老介護が行われている割合が多いという現状となっています。

また、フルタイム勤務あるいはパートタイム勤務で働いている方が全体の約4割を占めています。仕事と介護の両立については、離職・転職せずとも介護を継続できると回答する方が過半数である一方、実際に離職・転職をした方や、就労継続は困難と感じている方も少なからず存在しています。また、労働時間の調整や休暇等を活用しながら介護を行う方がいるのも現状であり、このような方々に対して介護に対する負担を軽減していくことが重要です。

#### ②主な介護者の不安の軽減について

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護として、「認知症状への対応」、「(日中・夜間の)排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」が上位に挙がっており、これらに対応していくことにより、介護者の不安軽減に効果が期待できると考えられます。

特に、「認知症状への対応」においては、要介護者が抱えている傷病で「認知症」が43.5%と最も多いという現状も踏まえ、認知症初期集中支援チームの整備など認知症対策に関する取り組みの一層の強化を図るとともに、認知症対応型サービスの利用ニーズを把握し、整備を検討していくことが必要です。

#### ③介護保険サービスの利用について

##### ア 介護保険サービスの組み合わせ利用

介護保険サービスの利用状況では「通所系のみ」の利用が過半数となっています。しかし、要介護度が重度となるにつれて、必要に応じて「訪問系を含む組み合わせ利用」を推進することにより、介護者の不安や負担を軽減させる効果が期待できることから、ケアプラン点検支援等により、必要に応じた組み合わせ利用の促進等に取り組むことが重要といえます。

##### イ 施設等検討

施設等の需要については、単身世帯及び夫婦のみ世帯、あるいは重度の要介護者において、特に需要が高まっています。このことから、第6期事業計画では未実施となった施設整備を、第7期事業計画では取り組むことが重要であると考えられます。

##### ウ 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービスの未利用の理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多いですが、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」といった回答も少数ですが存在しています。

介護を必要とする多くの高齢者に介護保険サービスが行き渡るよう、要介護者の負担能力に応じたケアマネジメントやケアプラン点検支援の実施、相談窓口の役割を担う地域包括支援センターをはじめ、介護保険サービスの利用に関する一層の周知活動といった介護保険サービスに関する情報提供等を、引き続き実施していくことが重要であると考えられます。

#### ④保険外の支援・サービスの利用について

保険外の支援・サービスについては、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「外出同行(通院・買い物など)」といった要介護者の外出に関する支援・サービスに関して、実際の利用及び需要が多いことが明らかとなりました。

既存サービスの活用や、新たな移送サービスの導入等の検討が重要であると考えられます。

### 3) 特別養護老人ホームの入所申込状況（待機者）

本町の被保険者で、平成29年5月1日現在の特別養護老人ホームの入所申込者数は65人で、そのうち要介護3以上の方や独居または家族の介護が見込めない方として入所が必要と判断される方は59人となっています。

要介護度別では、要介護3が23人、要介護4が28人、要介護5では8人となっています。

入所が必要と判断する59人のうち、30人（要介護3：13人、要介護4：14人、要介護5：3人）が現在も在宅介護が行われている状況です。

他には、医療療養病床が4人、介護療養型医療施設が1人、その他の医療機関が3人、老人保健施設が7人、ショートステイが6人、認知症高齢者グループホームが2人、その他が6人となっています。

要介護3以上の重度認定者に対する在宅介護は、介護者に対しても負担が大きいため、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、サービス基盤の整備に取り組んでいく必要があります。

#### (1) 入所申込者（待機者）数

（平成29年5月1日現在 / 単位:人）

要介護度	入所申込者数	※精査後の入所申込者数 〔町において入所が必要と判断する入所申込者数〕
要介護1	3	0
要介護2	3	0
要介護3	23	23
要介護4	28	28
要介護5	8	8
合計	65	59

※欄は、要介護3以上の入所申込者を原則として算入する。

#### (2) 精査後の入所申込者（待機者）の現在の状況

（平成29年5月1日現在 / 単位:人）

現在の状況 (在宅・施設入所等)	人 数					
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
1 在宅	0	0	13	14	3	30
2 医療療養病床	0	0	2	1	1	4
3 介護療養型医療施設	0	0	0	0	1	1
4 その他の医療機関	0	0	1	2	0	3
5 老人保健施設	0	0	1	3	3	7
6 ショートステイ	0	0	3	3	0	6
7 認知症高齢者グループホーム	0	0	1	1	0	2
8 養護老人ホーム	0	0	0	0	0	0
9 軽費老人ホーム	0	0	0	0	0	0
10 有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0
11 サービス付き高齢者向け住宅	0	0	0	0	0	0
12 その他	0	0	2	4	0	6
計	0	0	23	28	8	59